

昭和二十四年三月十九日 昭和二十六年七月二十五日印刷
第三種郵便物認可 昭和二十六年八月一日発行 (毎月一日発行)

建築（社會）

日本建築協會

VOL-32

1951

8

*The Architectural
Association of Japan*

HITACHI

快適な乗心地！

日立エレベータ



各種 エレベータ

電動階段

ダムウエータ

新設は勿論保守修理を御引受け致します

日立の最新技術を誇る

冷暖房装置

全館冷暖房には

ターボ冷凍機を...

各室冷房には

ユニットクーラーを...

工事施行一式 設計資料御入用の節は最寄の営業所へ御照合下さい

東京 大阪 名古屋 福岡 仙台 札幌

日立製作所



事実が示す期界の名声赫々たる
ゴム質優秀、光沢美麗、色彩多量
耐久力絶大、足触快適、施工誠実

桜ゴム床材

責任施工

ゴムマット 1M×12尺

ゴムタイル 1尺角・5寸角

階段マット 185CM×28CM

ゴム製バスリッパ

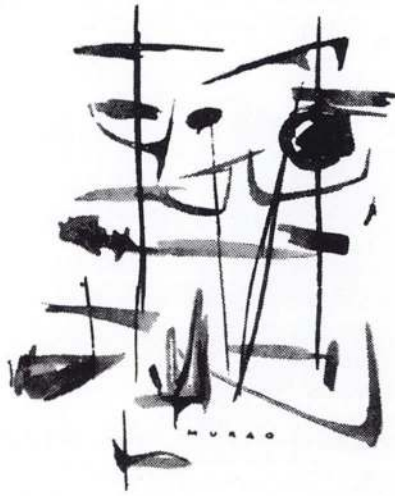
大阪市東区備後町三ノ四

櫻物産株式会社大阪支店

電話 船場 ② 1437・1438
4681・5767

本社 東京・営業所 福岡・札幌





建 築 と 社 会

8

1951

新 建 築 紹 介

ART BUILDING, CARLETON COLLEGE.....	2
日本経済新聞大阪支社.....	4
芦屋市宮川小学校.....	7
三洋電機株式会社.....	8
天理教東京会館競技設計一等当選図案.....	10

記 事 欄

(ABC順)

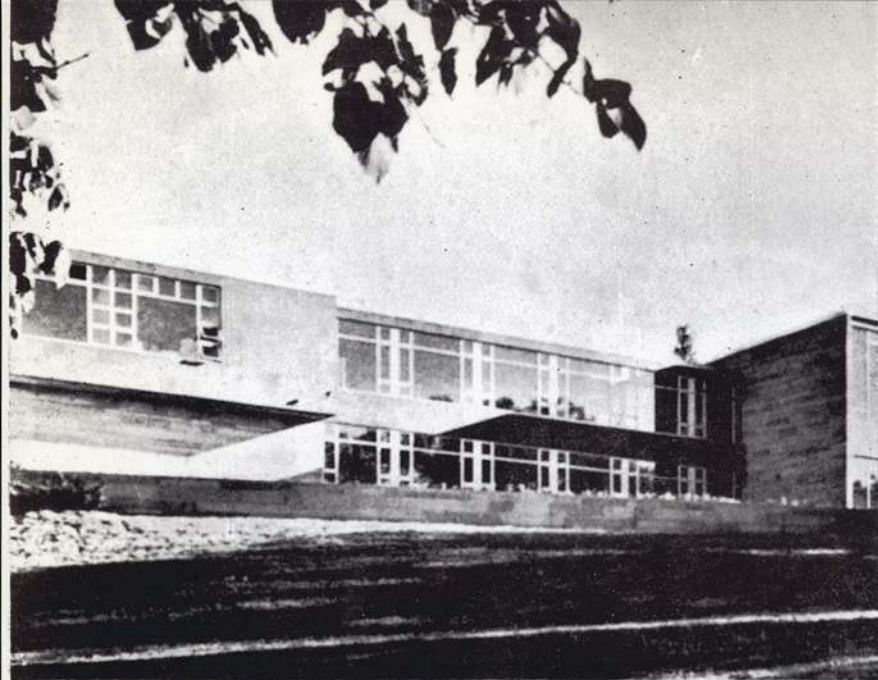
デザイン随想.....	石川純一郎.....	14
建築業を語る.....	大林芳郎.....	17
近頃考えること.....	尾崎久助.....	18
建築家の立場から.....	竹腰健造.....	19
今日の日本の建設業について.....	大林芳郎.....	21
建築を志す学生諸君へ.....	東畑謙三.....	23
私の心境.....	安井武雄.....	24
建設界の現況に対して一言する.....	渡辺節.....	26

紫 畑 室

「渡辺久純氏の建築観」批判.....	山地英雄.....	29
--------------------	-----------	----

図 譜

衛生陶器工事用図面.....	関西建材会編.....	31
----------------	-------------	----



建築家にとって施主の充分な理解と同情とを得ることは心たのしいことはなからう。このアートビルディングは正にその一例である。そうしてそれが自由なプランと自由な表現に表われている。

プランは展示場を間にはさんで、事務室とスタジオとに分れ、「通り道になつては部屋は有効に使えない」と云う原則にわざと逆らっている。だから教授も学生も或は参観者も展示場を通

北面——快いスロープ。大きな窓。

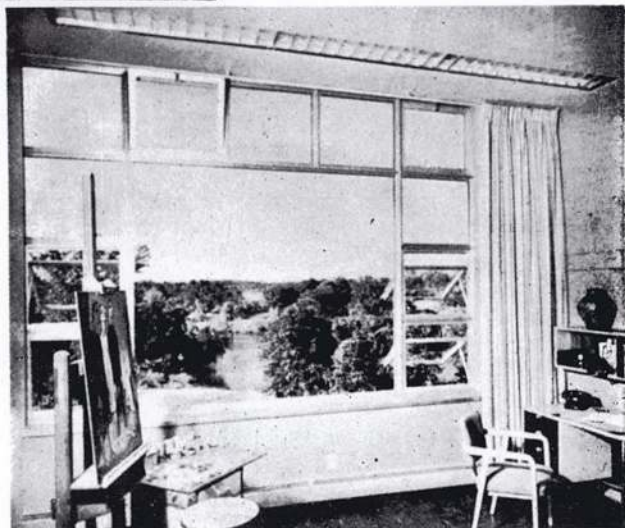
ART BUILDING, CARLETON COLLEGE

ミネソタ州

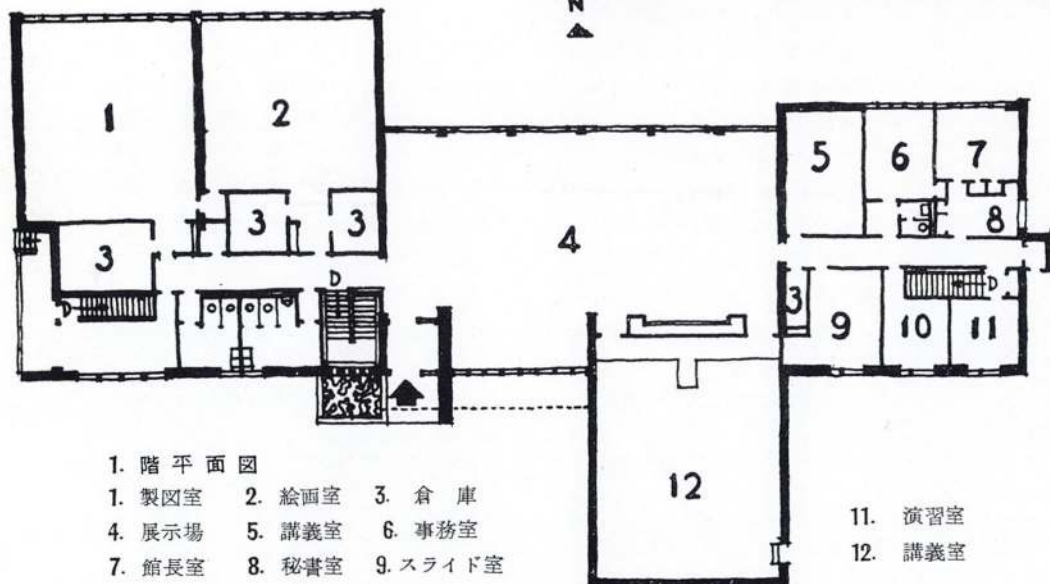
設計 Magney, Tusler & Setter

(ARCH. RECORD, NOV. 1950)

館長室



N
▲

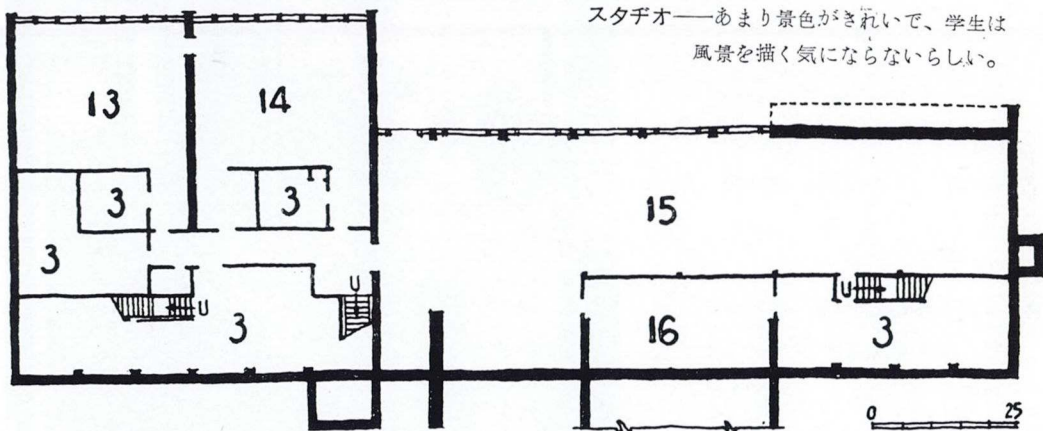
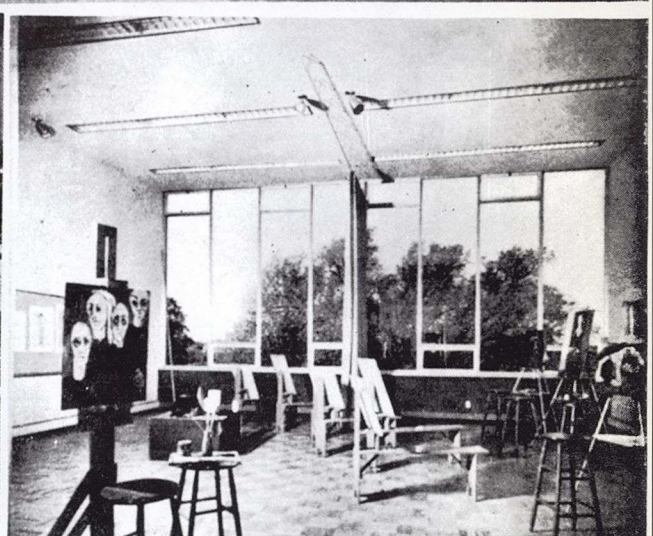
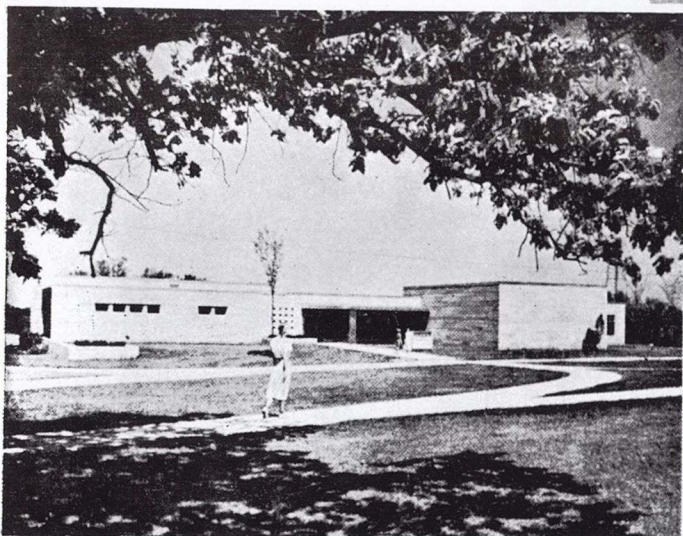
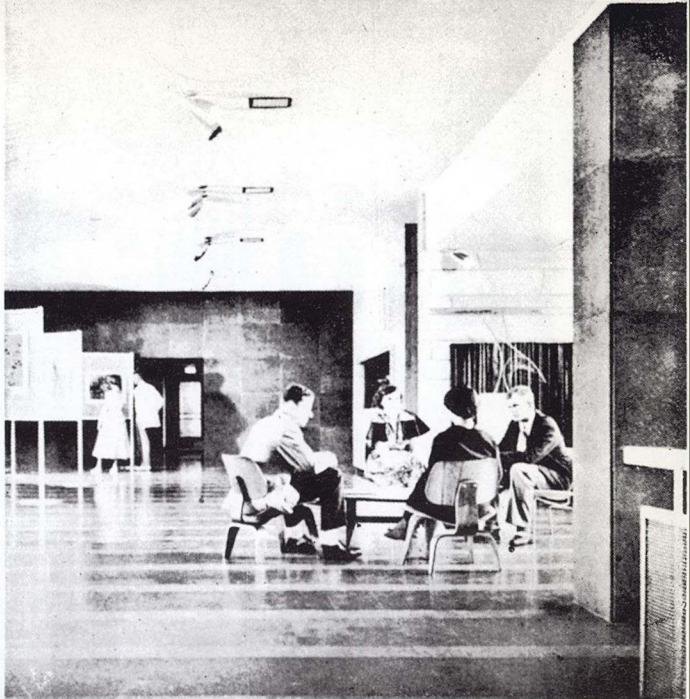


らねばどの部屋にも行けない。それだけ多くの人の目にとまる。

講義室が隣りにあることは一層具合が良い。この講義室は芸術科以外の学生が使うものだが、此所に来る学生は必ず展示作品を見て通るからである。

展示場——展示板は 4'×4' 又は 4'×8' の中空ベニヤ板。枠はアルミニウム。枠の端についたボタンをアルミニウム丸柱の孔にはめ込む。中心の柱を軸にして自由に回転出来る。

南面——建物は丘の上に入口がある。



スタジオ——あまり景色がきれいで、学生は風景を描く気にならないらしい。

2 階平面図

3. 倉庫 13. 彫刻室 14. デザイン室 15. 工作室 16. 機械室



外 観 東 面

外 装 2階窓台まで北及び東側石張（白
丁場）南及び西側人造石洗出塗、2階窓
台以上全面新クリーム色2丁掛タイル張
5分横目地

内 装(床)

地、1、2、3 階工場、事務室などモルタ
ル仕上げ。4、5、6 階クラブ関係室等フ
ローリング張及びフローリングブロック
張。1、4、5、6 階エレベーターホール
及び1階入口ホールテラゾー塗真鍮目地
入り。四階厨房モザイクタイル張

日本経済新聞社大阪支社

4階廊下より娛樂室を望む

設計・施工 株式会社戸田組

位 置 大阪市東区今橋1丁目15番地

敷地面積 419坪41

延 建 坪 1,228坪8合(地下1階、地上6階)

〔建坪内訳〕

地 階 221坪11 4 階 163坪76

1 階 200坪59 5 階 144坪82

2 階 200坪59 6 階 65坪09

中2階 74坪5 屋 階 24坪80

3 階 200坪59

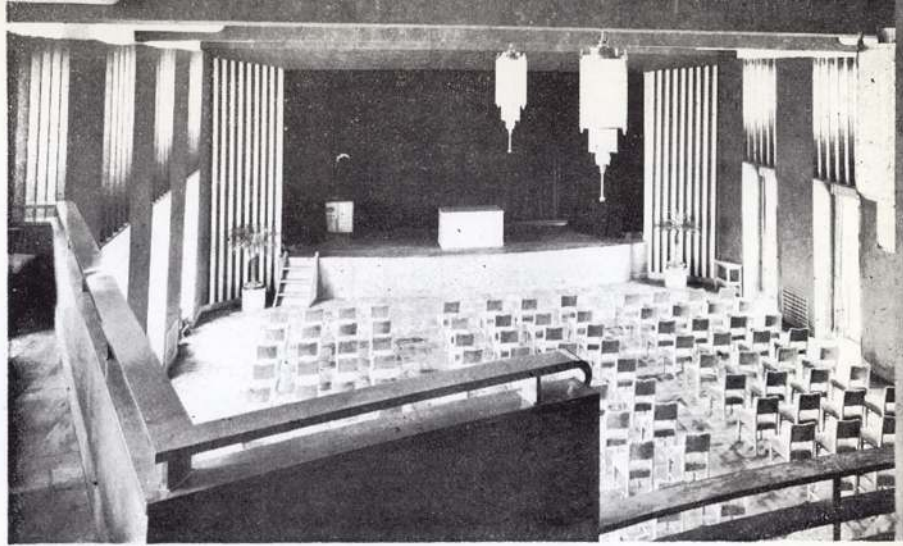
軒 高 東側(東横堀川側) 83尺5寸

同 最高部(除旗竿) 95尺5寸

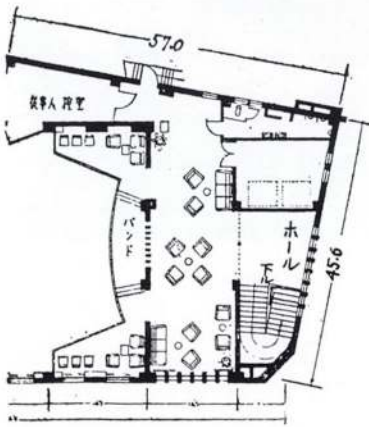
西側 47尺5寸

構 造 鉄筋コンクリート(一部鉄骨造)

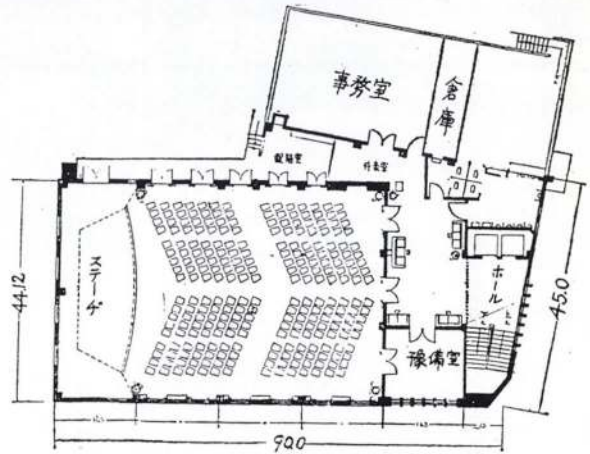




6階ギャラリーよりステージを見る

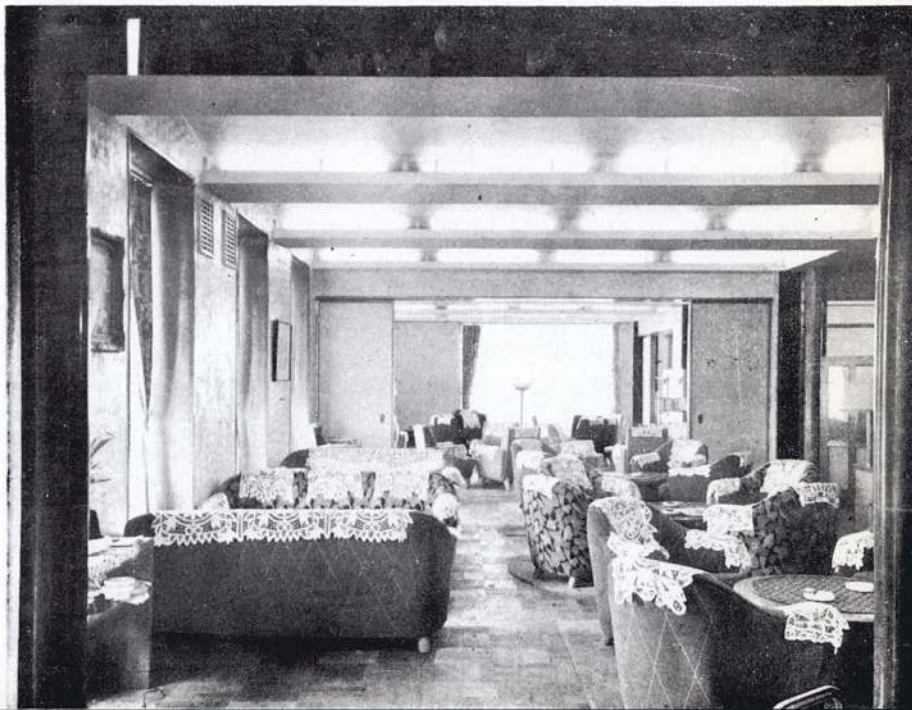


6階平面図



5階平面図

談話室





バー ルーム



談話室の一隅

設 備

〔暖房〕 昭和鉄工所製 S-513型 蒸汽罐

1基、御法川工場製 自動石炭燃焼器付

〔冷房〕 屋上機械室に三菱化工機製15馬

力メチールクロライド冷凍機2基、空

気洗滌器B型1基、エロフィン型空気

冷却器12個、空気濾過器18個、2段タ

ービンポンプ1基

〔消火設備〕 各階=C・E・C式半自動室

内消火栓（口径1吋半）13カ所、屋外

2吋半2口、サイヤミーズコネクション1ヶ所設備し各消火栓格納函の位置

に押釦スイッチ式消火ポンプ自動運

転装置を設備す。消火ポンプ口径3吋

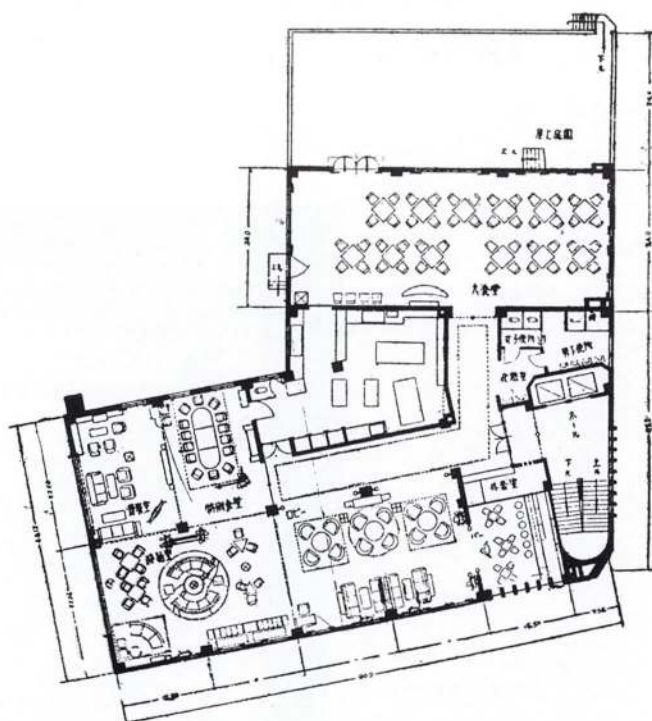
4段ダービンポンプ1台

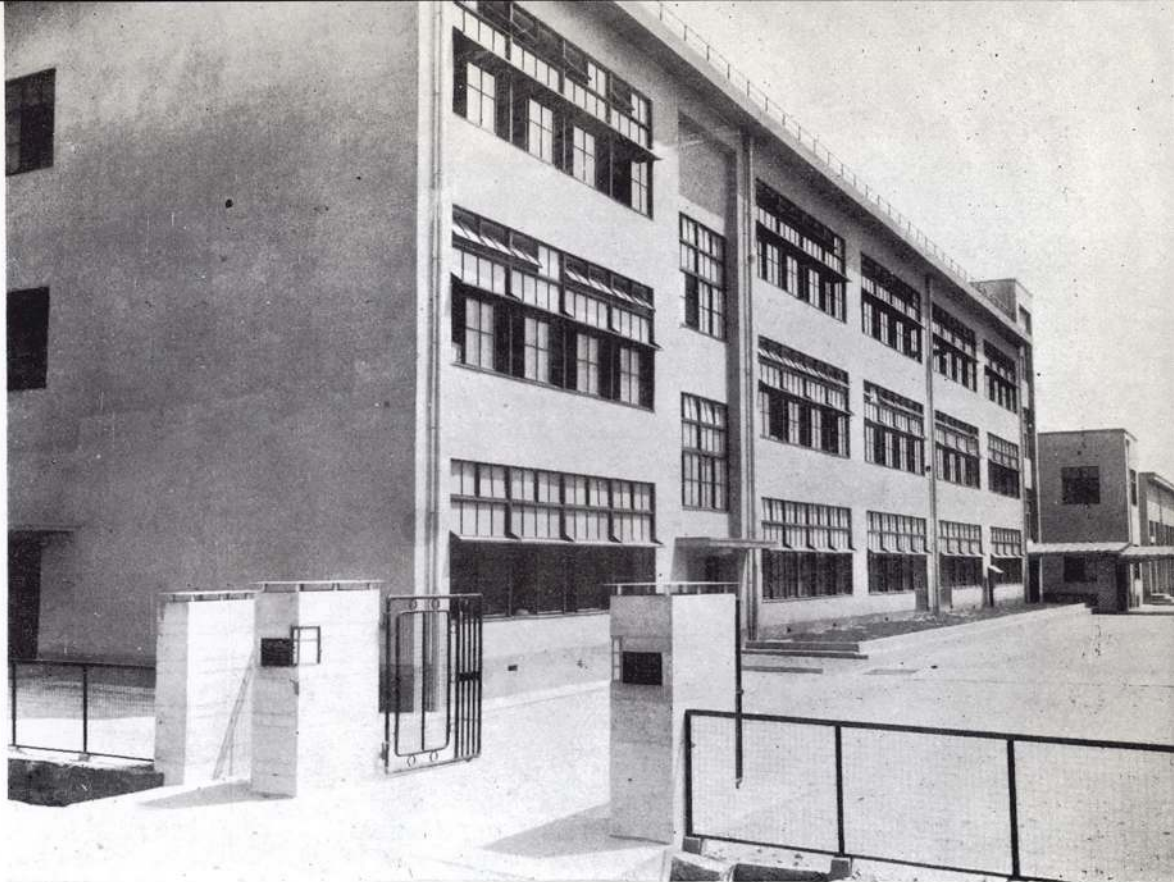
〔昇降機〕 東洋オーチス・エレベーター

株式会社製直流U・M・V式自動水平

精密着床装置付客用2台

4 階 平 面 図





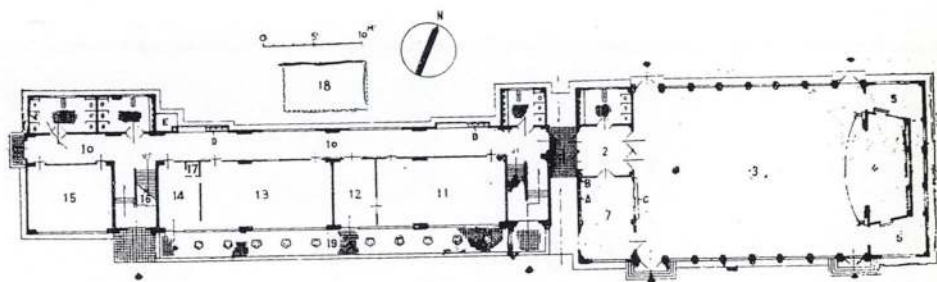
設 計 芦屋市建設部建築課

芦屋市宮川小学校

施 工 主体工事 鹿島建設株式会社
給水 衛生設備 神野商会

電気設備 阪神電機株式会社
家具 阪急室内装飾株式会社

位 置 芦屋市打出浜町

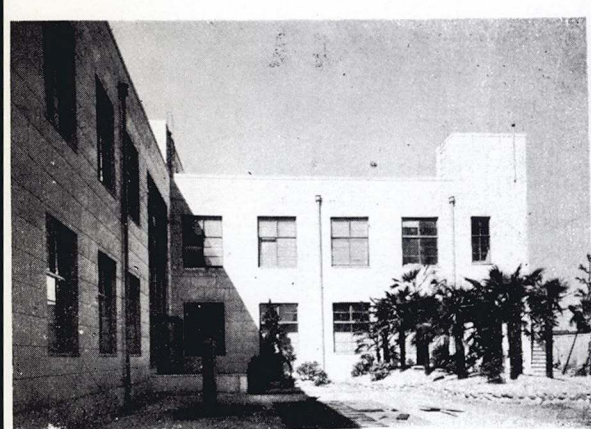


工 事 概 要	構 造	校 舎	鉄筋コンクリート造	仕 上	外 壁	色モルタル塗掻落し仕上
	腰	人造石洗出し	内部	校舎床	檜フローリング張	腰 教室
	廊 下	モルタル	ペンキ塗	壁	プラスター塗	ペンキ塗

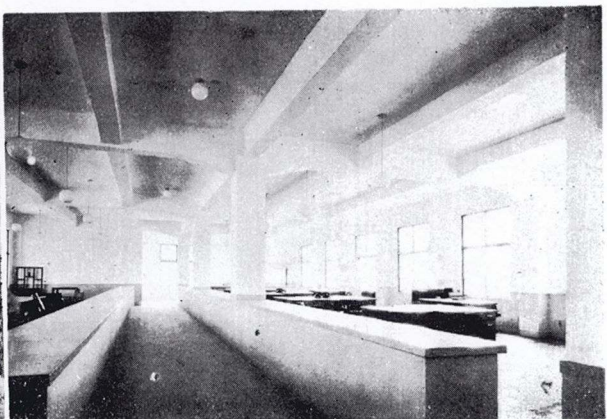
三洋電機株式会社



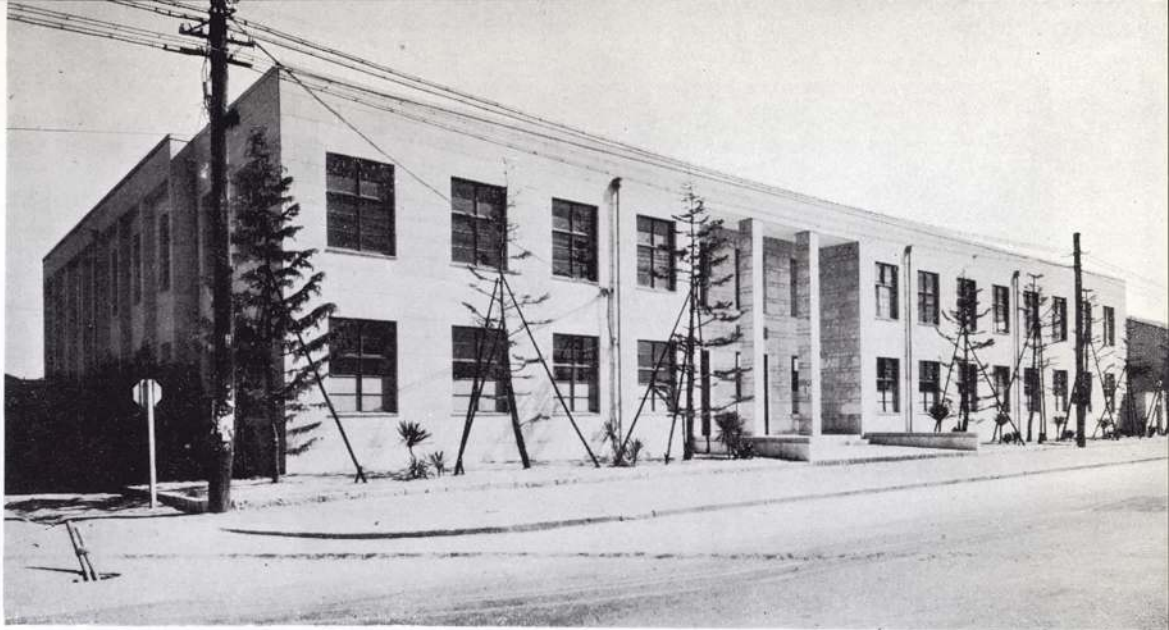
位 置 守口市京阪本通り2丁目38 設 計 デザイン 中野順次郎 株式会社 中 道 組
 施 工 株式会社 中 道 組 電気工事 近畿電気株式会社 給排水工事 保坂工業株式会社
 建物面積 1 階 248坪 2 階 243坪 屋階 7.5坪 延 498.5坪



事務所裏側



二階営業室



工事概要

鉄筋コンクリート造2階建

外部仕上

人造石洗出玄関腰文化石張

内部仕上

玄関床人造石研出 腰テラゾー

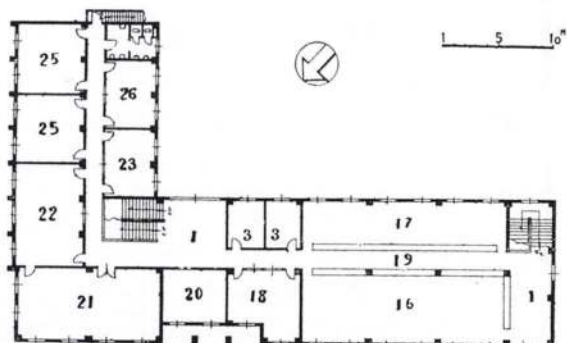
廊下床、腰、人造石研出

事務室床リグノイド腰人造石研出壁、

天井プラスター

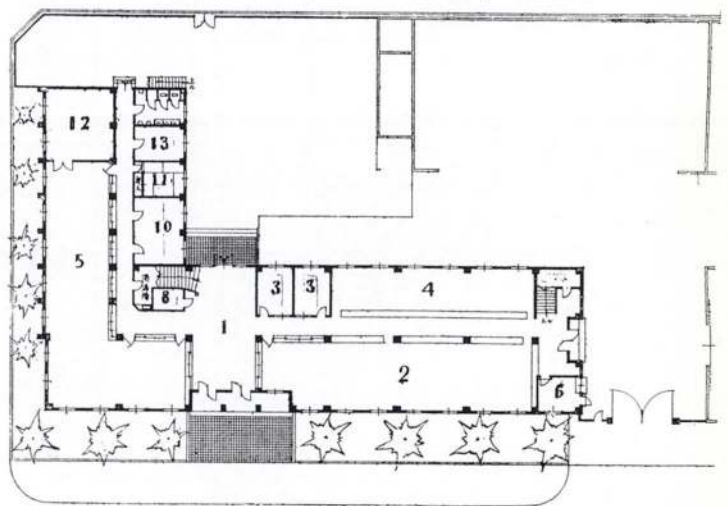
重役室及応接床ゴムタイル腰ベニヤ

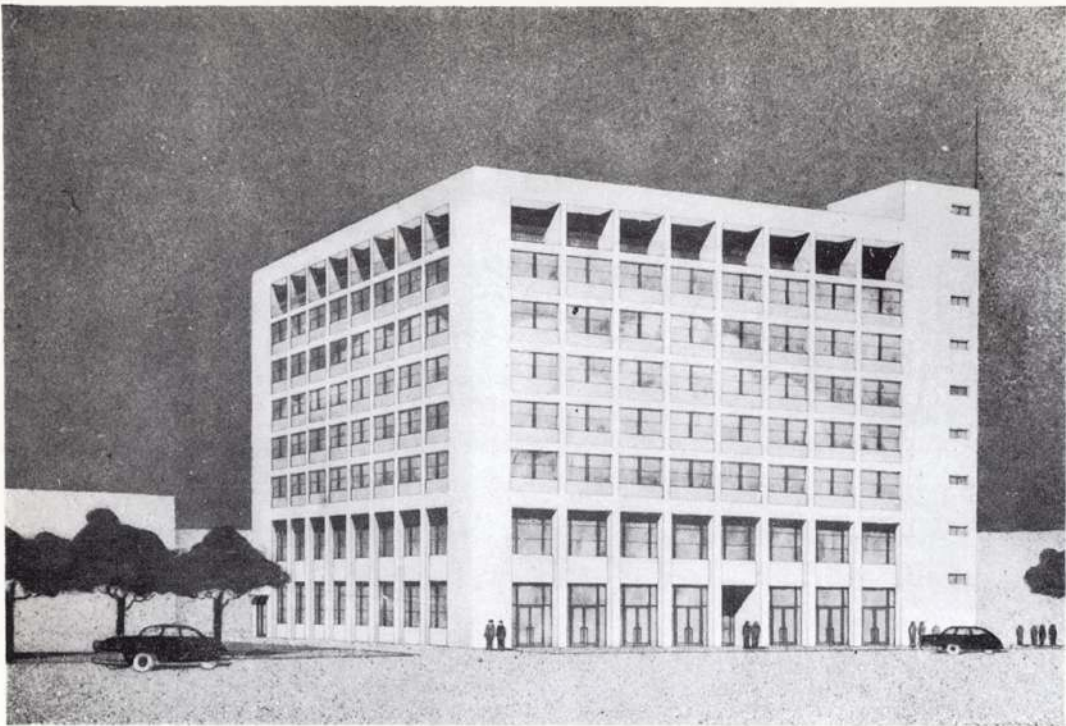
及壁紙張、天井プラスター



平面図説明

- | | | |
|---------------|---------------|-----|
| 1. 広 間 | 15. 物 入 | 入 課 |
| 2. 営 業 部 | 16. 計 画 | 課 |
| 3. 応 接 室 | 17. 技 術 | 課 |
| 4. 宣 伝 部 室 | 18. 資 材 | 課 |
| 5. 総 務 部 室 | 19. 重 役 | 室 |
| 6. 守 衛 室 | 20. 廊 下 | 抜 室 |
| 7. 物 入 室 | 21. 吹 抜 | 室 |
| 8. 配 電 室 | 22. 会 議 | 室 |
| 9. 湯 沸 場 | 23. 社 長 | 室 |
| 10. 電 話 交 換 室 | 24. 社 長 応 接 室 | 室 |
| 11. 宿 直 室 | 25. 予 備 室 | 室 |
| 12. 書 類 倉 | 26. 食 堂 | 室 |
| 13. 更 衣 室 | 27. 洗 面 所 | 室 |

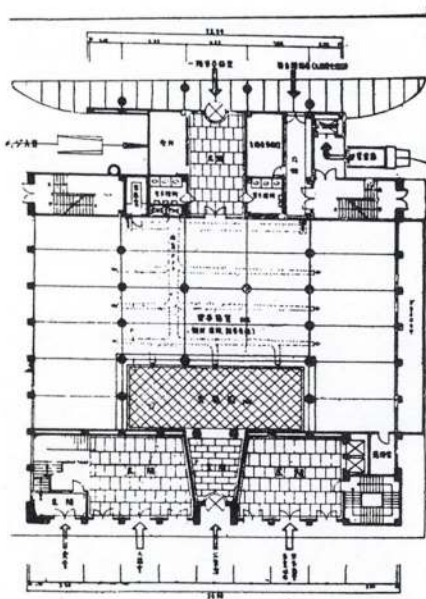




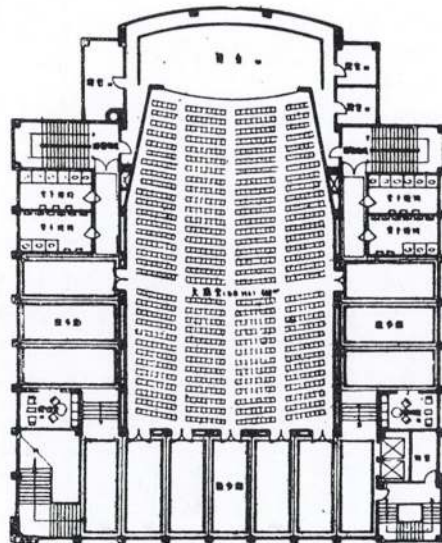
天理教東京会館競技設計一等當選図案

設計者 小坂 秀雄

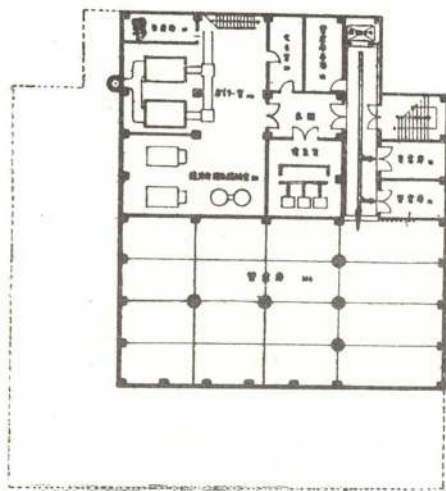
天理教信条の社会的実行の一試作として、現代日本人の文化生活進展に資することを目的とする。



1 階



2 階



地 2 階

建築計画の内容並に要求條項

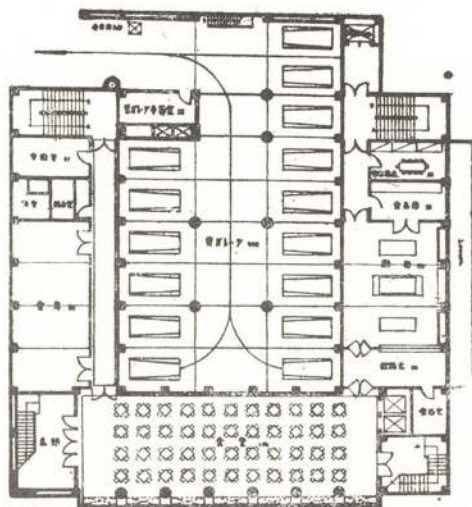
(1) 大講堂関係諸室

大講堂	1	座席千内外
控室	3	適宜

其の他必要な附属室を設けること

(2) 事業関係諸室

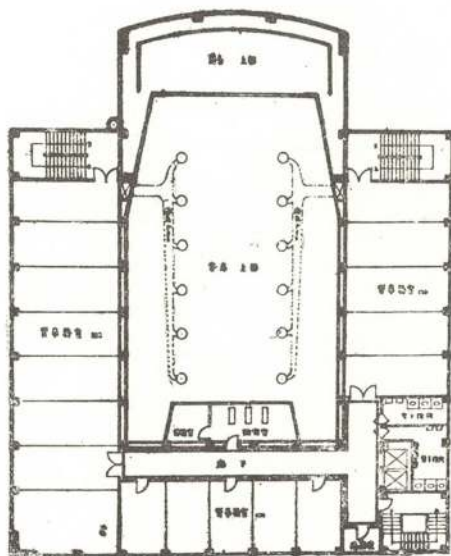
館長室兼来賓室	1	約30平方米
小集会室	4	30名程度
事務員宿直室	1	約15平方米
給仕室	1	約10平方米



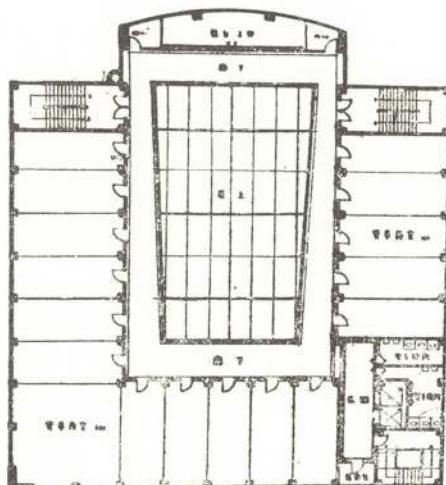
地 1 階

遊歩廊	適宜	なるべく広くとること
事務室	1	適宜

事務室	7	各約30平方米
応接室	1	約20平方米
従業員食堂兼会議室	1	約15平方米



3 階



4 階

東西断面

(3) その他の諸室

貸事務室 可及的多く 適 宜
とること

宿泊室 {1人室} 約20 適 宜
{2人室}

宿泊室 {学生等の} 各收容人員
{団体用} 30名程度

宿泊室関係事務室 1 適 宜

以上の諸室は地上階に設けること

食 堂 1 約250平方米

食堂附属室 適 宜

貸ガレージ 1 約15台收容

諸機関室 適 宜 適 宜

諸機関室附属室

電 気 室 1 適 宜

貸 倉 庫 適 宜 適 宜

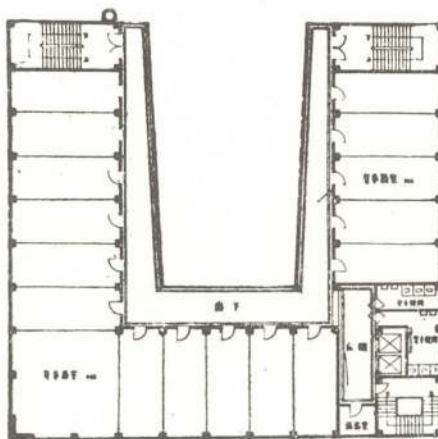
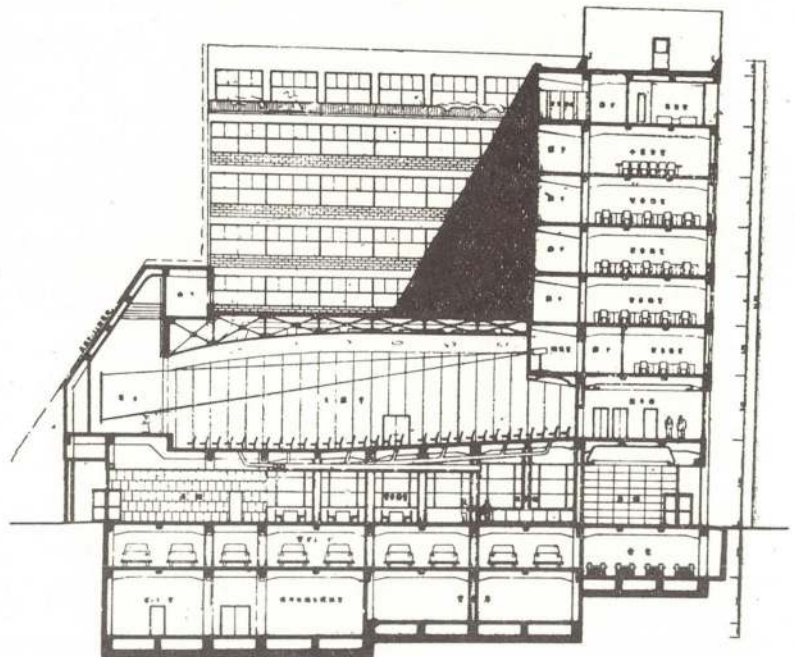
浴 室 1 適 宜

守 衛 室 1 適 宜

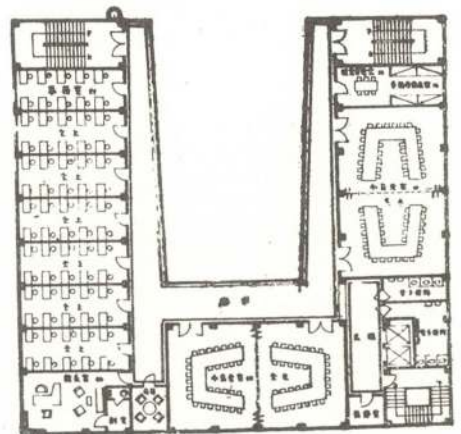
倉 庫 適 宜 適 宜

(4) 補足事項

以上の他、玄関・広間・廊下・階段・昇降機室・洗面所・便所其の他必要な諸室及び設備をすること

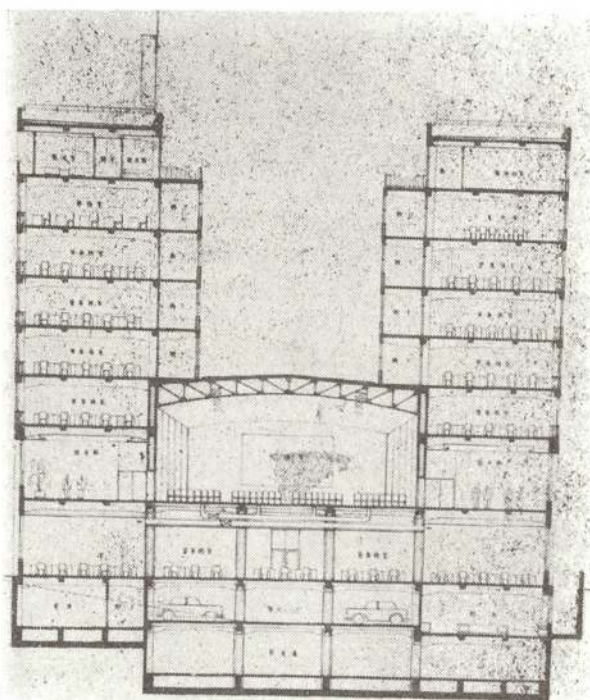


5, 6 階



7 階

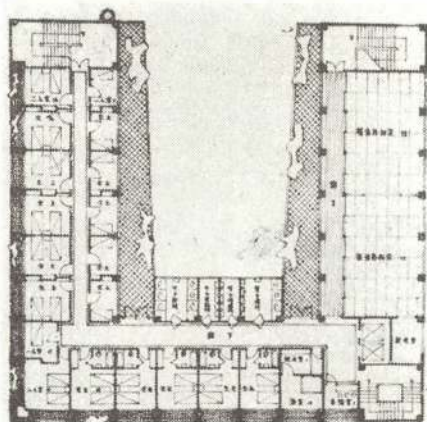
南北断面



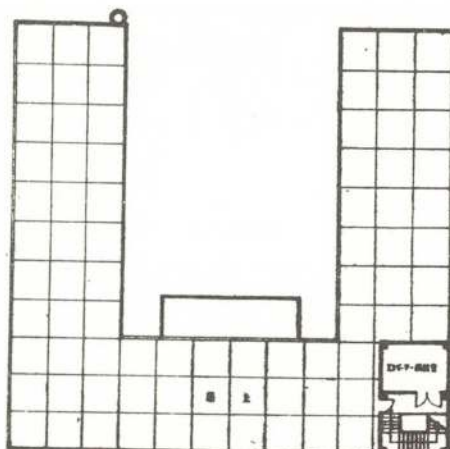
入選者氏名

住 所

- | | | |
|----|--------|--------------------------------------|
| 1等 | 小坂 秀雄 | 東京都杉並区永福町263 |
| 2等 | 川喜田一雄 | 横浜市鶴見区鶴見町1012 |
| | 佐 藤 栄 | " " |
| | 須田善三郎 | " " |
| 3等 | 佐藤 武夫 | 東京都中央区銀座西4の3 |
| | 設計研究室 | 教文館別館307号 |
| 佳作 | 大江 宏 | 東京都千代田区神田鍛冶町2の1、大江宏研究室 |
| | 吉岡 右令 | " " |
| | 海宝 昭次 | " " |
| | 横島 久子 | " " |
| | 倉森 武雄 | 山口県光市光井緑ヶ丘29 |
| | 篠原 三郎 | 東京都千代田区丸の内3の12、仲3号の1田中秀夫建築事務所 |
| | 望月 秀敏 | " " |
| | 田中 誠 | 東京都品川区大井寺下町1580 |
| | 崎谷小三郎 | " " |
| | 大沢 三郎 | " 練馬区練馬南町2の3771 |
| | 吉川 清 | " 世田谷区染沢町4の116 |
| | 篠田 経男 | " 目黒区中根町179 長井方 |
| | 田中 清雄 | 東京都大田区田園調布2の809 |
| | 小崎 嘉明 | " 杉並区高円寺1の2 |
| | 竹崎 文二 | " 中野区上高田1の240 |
| | 富田 陽一郎 | " 北区田端町362 |
| | 梶川 一夫 | 神奈川県中郡大野町八幡450 |
| | 春山 新三 | 福島市花園町45の4 |
| | 平岡 正夫 | 東京都杉並区東田町2の176 |
| | 吉田安太郎 | " 南多摩郡多摩村連光寺2086 |
| | 渡辺 洋治 | " 中央区銀座7の5
ニューギンザ第一ビル
久米建築事務所内 |



8 階



屋 階

デザイン随想

石川純一郎

① デザイン及びデザイナーの尊重

良い建築の出来るための第一の要件は良いデザイナー
良いデザインの存在でなければならない。

こんなことは判りきつたことなのだが、案外一般には
判っていない。

従つて建築のデザインなどというものは関係者以外に
は全く問題にされていないし、デザイナーなどというも
のも全く縁の下の力持的存在でしかない。

こんな状態では良い建築は出来つこないと思う。デザ
インなりデザイナーなりが社会的に充分に尊重される状
態が速く到来しなければならない。

現状では、殆んどデザイナーがサラリー・デザイ
ナーであつて、独立の自由職業としては成立ちにくい。

純粋に建築のデザインを売るだけで食つてゆけるのは
余程の人でないと無理であるし、又余程の人でも現実
にはなかなか困難だと思う。

医者には当然診察料を払うべきことを知っている人
でも、建築家に設計料を払うのは当然でもなさそうに思
う人が多い。

社会一般がデザインの必要を感じ、それを尊重し、そ
の価値を認めるということにならないとデザイナーの自
立は難しい。

これは建築ばかりでなく、一般の工芸品や工業品のデ
ザインでも同じことで、細々とでも独立してゆけるのは
一部の繊維製品のデザイナーか、商業美術関係の一部く
らいのもので、その他の工芸品、工業品の分野には独立
のデザイナーは全くないといつてよい。

これはそういう方面のデザインを専門にやつていると
いうことでは生活が保証されないからだ。

自然そういう方面のデザインは、まるで専門外の人の
アルバイト・デザインなのである。

これでは良いデザイン、従つて良い製品は出来そうな
筈がない。

最近の欧米ではインダストリアル・デザイン（工業意
匠）の問題が極めて重要視されていること我々の想像以
上で、一切の工業製品のデザインに専門のデザイナーが
関与することは常識である。

その専門も甚しく分化されていて、繊維製品のデザ
インにしても、人絹もの専門のデザイナーとか木綿もの専
門のデザイナーとかいうようなものがあり、又それだけ
で充分職業として成立つというのだからうらやましい。

英国の有名な C.I.D.（工業意匠会議）の組織は甚だ
強力な規模の大きいもので、デザインの研究、向上、保

護など甚だ広範囲の機構をもつて大活動をやつている。

かようにデザインは国家的な政策にまでとりあげられ
ていることを思うと、日本の現状は甚だなさけないこと
だ。

此間パキスタンで開かれた国際博覧会で日本の各出品
物がデザインの貧困によつて甚しい醜態を暴露して非常
な不評を買つたということだが、当事者は勿論、我々日
本人にとつても甚だ恥かしい経験だつたといえようが、
又これが一つの刺激となり、反省の機会とならんことを
我々は望みたい。

大阪府が最近、知事諮問機関として大阪府工芸振興委
員会を設け、更に近々民間団体として大阪府工芸協会の
結成をもくろんでいる。

これには、例へばデザイン・センターというような C
I D 機構の一部もとり入れられる筈で、兎に角これによ
つて各方面の優秀なデザイナーもあらわれ、優秀なデザ
インも保護され、デザインに対する一般の関心も高めら
れ、ひいてはデザイン、デザイナーに対する尊重の風も
喚起されるということになれば誠に喜ばしい。

② 外国のデザインの模倣について

日本ほど外国文化、殊に欧米文化の模倣の激しい国は
世界中どこにもなさそうだ。

アメリカの好みは大西洋を渡つてヨーロッパにゆくよ
りも、遙かに容易に太平洋を渡つて日本に来る。

ヨーロッパの好みも同様にアメリカに渡るよりも遙か
に容易に日本に渡つて来る。

それほど日本人の外国文化に対する無批判な食慾は旺
盛驚くばかりだ。

アメリカのデザイン、フランスのデザイン、イギリス
のデザイン総て日本に氾濫している。

街を歩くと最近のあちらのデザインそのままのショー
ウィンドーがあつたり、服飾の文様の女があつたりする

同様に最近のアメリカの建築雑誌で見た特異な庇など
そのまま、ちやんとくつつけられている建物にぶつかつ
て、面くらうことがある。

それも全体的に調和して用いられてでもいればまだし
も、如何にも唐突に取付けられているので全くびつくり
する。

一寸面白く人目をひく一個の庇——そんなものを外国
雑誌の写真で発見すると、何の躊躇もなく早速借用に及
ぶ。

こうしたことは概して若い建築家の仕業だとは思ふが
困つたことである。

というのは今我々はデザインなりデザイナーなりの尊重を社会に要求しようとしているのに楽屋裏の仲間のデザイナーがみづからこれを打撃しにかかっているようなものだからである。

他人のデザインを無断借用に及ぶことはそのデザイナーに対する冒瀆であり侵害である。

著作権や意匠権というような法律的な権利が確立している場合は勿論、そうでなくても、道義的によろしくない。自分のデザインを尊重させるということは他人のデザインを尊重することに他ならない。

もつとも我々も若い頃、トラあさに受身をやつしたものであり、今の若い人々にしても、向上進歩を願うならば、是非偉大なデザイナーの優秀な作品に数多く接し、味はい、自分の技術の練磨に役立たしめねばなるまい。

しかしトラあさりの目的は決して単なる外形の猿まねの模倣にあつてはならない。

人の気のつかないトラを探し出して、これを模倣して模倣の先鞭を自慢しているようではデザインの尊敬も何もあつたものではない。

一体、デザインは形を持つて初めて第三者の認め得るデザインたり得るのだが、デザインのデザインたる所以はデザイン以前のもの、デザインの基礎となるもの、即ちアイディアとかセンスとかいうものにその本質をもつている。

優秀なデザイナーとは先づ第一に或る独創的なアイディア、或いは或る斬新なセンスを発見し、第二にこれを如何なる形をもつて表現すべきかというその形を発見することに優れた頭脳と技巧とを有する人なのである。

ここでは「形」は従であつて、主たるものは「心」である。従つて我々

がトラあさに浮身をやつして技術練磨に資するという真の意味は、この「形」と「心」並びにその「関連」を見抜くことでなければならない。

この筋道が通つた時に我々は重大なヒントを得たことになり、自分自身のデザインの手掛りを得る。

兎に角デザインなりデザイナーなりの価値はその創作性にあるのだから模倣排除は当然であらう。

③ 建築の批評について

絵画、彫刻、文学、音楽、演劇、映画などそれぞれ専門の批評家の批評というものがあり、新聞雑誌などに公表される。

権威ある批評はその対象の価値を定め、一般人の判断を指導し、ひいてはその対象の世界の進歩を促すから批評は活潑なのがよい。

しかし今日のところ建築には批評はない。もつとも特殊な場合即ち懸賞募集図案の審査批評など建築関係雑誌には散見するが、一般的な出版物には見られない。

これは建築のデザインなどというものが上記の絵画乃至映画などのように一般社会人の関心の中に入つていず自然ジャーナリズムもとりあげないからであらう。

建築は公共的性格を帯びたものは勿論、たとへ個人的なものであつても、当然社会的意義は附随する。

従つてそのデザインはデザイナーの一人よがりや、独断的なものでは困る。権威ある批評に堪えられるものでなければなるまい。

優秀なデザインが顕揚されずに埋れ、劣悪なデザインが制裁を受けずにのさばっている状態が続く間はデザインの進歩は望めない。

工業意匠などではこれが甚しいのではあるまいか。良いデザインの製品が反つて醜悪なデザインの製品によつて駆逐される例は少なくない。

ここに強力な批評があつて、デザインの良否を判定し一般利用者の蒙を啓き、共感を得られれば自ら良デザイン製品の売行は増加し、メーカーも喜んでより良きデザイン製品の生産へ努力することにならう。

良きデザインを得ること、良きデザイナーのあらわれ

お断り

本号所載の石川氏の稿は谷口尙武氏が、大林氏、尾崎氏、竹腰氏、安井氏、渡辺氏の稿はすべて私が御目にかかつて御話を伺い、沖田編集員が筆記したものを私が編集したものである。

筆者は素人でメモ程度より書き取れなかつたので私が勝手に文章に綴つた。然し私の不敏のために充分に御意志を表現することができず、その為にひどい誤を犯して居るかも知れない。その上御本人の校閲を得る暇がなかつたので、その点の責任は私にある。(白石博三)

ること、一般人がデザインの良否を正しく判断し得ること、デザイン及びデザイナーが社会的に正しく尊重されること、など総て正しく力強いデザイン批評が活潑に行われることによつてその道が開かれてゆくかと思う。

④ 建築と絵画、彫刻

この頃建築に壁画やレリーフなどの使われたも

のが見えて来た。

こういうことは勿論戦前にもあつて京都の朝日会館などその最たるもので、200坪近くの外部壁面全部に壁画をやつたのだから相当思いきつた仕事であつて、アメリカの雑誌やスペインの新聞にさへ紹介されたくらいセッションナルなことだつた。

もつとも最初案はあした純粋な壁画でなしに、ジャーナリズムの殿堂らしく雄大な、しかも芸術的な絵画を主体とする広告ポスターを描き上げる筈だつたが、広告取締規則にひつかかつて実現絶望になつて、急に広告の意味のない壁画に変更したのだ。

兎に角建築に絵画や彫刻の取入れられたことは、昔からあるのだし別に不思議もないのだが、近代の潔癖な建築論は建築の中に絵画や彫刻の入つて来るのが何か余計なもの、又は建築の純粋性を侵すもののように思つたため積極的に取入れられなかつたに過ぎないと思う。

しかし建築はそんなに絵画や彫刻をけがらひする必要もない。そうかといつて何も無闇に取入れたがるのもどうかと思う。

要は絵画でも彫刻でも一つの建築材料だと思へばよいのではあるまいか。

絵画という材料を使うことが自分のデザインの意図から最も適当なら使うのもよいし、必要がなければ使わなくてもよい。

丁度椅子の張裂にしろ、窓のカーテンにしろ、無地がよければ無地を、柄物がよければ柄物を、といった程度に考へてよいと思う。

全く壁に描かれた絵画はそれとして見れば絵画であるが、建築と一体的に見る時には、絵画は単なる建築の一部で、建築の他の部分と協同して調和的效果を出す役目を負うもので、絵画の独立的な意味は失われる。

壁画だけが他を無視してその独立性を主張されると結局建築と共存すべき壁画の意味は失われ、自己主張は反つて自己犠牲になつてしまふ。

こんなわけで、建築に絵画や彫刻を取入れるデザインの成功にはかなり困難がある。

第一に画家や彫刻家はどうしても自分の作品を見せようとする。

全体の調和などということは殆んど問題にせず、ひたすら自分の制作圈内のみで仕事をする事になつて、全体的には甚だぶち壊しになることがある。

真に建築家の意図を理解し、全体的にその建築デザインを把んでその中に自分の作品を調和させることの出来る作家は極めて少ないのではないかと思う。

第二には建築家自身の態度で、先づ絵画や彫刻をつけることが果してデザイン上必要であるかどうか吟味しなければなるまい。

単に興味や他の不純な理由でつけるのでは困る。又つけることになれば、全体のデザイン上絵画、彫刻のもつべき図柄や形も建築家自身基本的なデザインはしなければならず、更に絵画、彫刻の作家に対しても全体の統一的设计を理解せしめ、同時に指導、監督を怠つてはなるまい。これも建築家にとって容易なことではない。

しかしこの困難を克服して成功すれば一種特別の感覚が出て面白いものにならう。

⑥ 建築主の理解について

建築のデザインは建築のデザイナーの思う通りにやれそうで、現実にはなかなかやれない。

その一つは建築費から制限される場合もあろうし、その他から制限されることもある。

勿論建築費の多寡なデザインの良否を決めるわけでもないが、今日のように建築費が高騰して来ると一寸した建築でも非常に多額になるので、勢、予算はきりつめられて、甚しく窮屈になつてデザインにも影響して来ることもある。しかし最も大きな問題は建築主の理解の有無だと思ふ。

建築主は一般に素人なのだが、その中には素人とは雖も多くの建築の経験から玄人の域に入つていような人もあり、建築などというものはまるで知らないずぶの素人があり、その中間の色々な段階の人々がある。

玄人はだしの建築主にしても色々あつて、自分は自分なりの意見は出しても、建築家のデザインは飽くまで尊重してゆくという風の人があり、なまじつか少々知つていだけに「ああでもない」「こうでもない」と建築家のデザインを圧迫しつづける人があり、ずぶの素人の中にも他人の色々な意見に迷わされて次々に相矛盾するような注文を出して建築家を困らせるようなのがあり、そうかと思つてまるで投やりでまかせつきりというようなものもある。

いづれにしろ、建築家にとってはデザイン以外のつまらない理由で苦しまれたりせずに、十分に仕事出来る状態に置いて貰へて、又必要があれば意見も示し、協力もして貰へる人が有難い。

建築主が素人なら素人なりに、デザイナーを理解し、デザインを理解して呉れれば、デザイナーの力量にもよることだが、良いデザインが出来なければならない筈である。

もしここに良い建築が出来たとすれば、良きデザイナー、良き施工者が先づ考へられはするが同時に良き建築主をも忘れてはなるまいと思う。実際有能なデザイナーのもので建築主の無理解によつて惜しくも傷つけられてしまつたものもある。

工業意匠でもメーカーのデザインに対する理解が十分であれば必ずや良きデザインが取上げられ悪いデザインは棄てられるに違いない。(筆者・竹中工務店技師長)

理想的床材料

リノリウム



リノタイル

特製 リノリウム糊

リノリウム・ワックス

東洋リノリウム株式会社

本社・工場 兵庫県伊丹市伊丹五五八 電話 伊丹 1・51・69

大阪事務所

大阪市東区瓦町二丁目 三和ビル
電話 北浜 375・376

東京支店

東京都中央区銀座四丁目 三和ビル
電話 京橋 1701・2564

建設業を語る

大林 芳 郎 (談)

質問編集 白石 博 三

白石 最近鉄鋼の使用量などに関する建築制限が行われる様になりましたが、それについての御話から始めて頂けませんでしょうか。

大林 業者の立場から云へば、制限はない方が望ましいことは云う迄ありませんが……。

白石 なぜやるか、またどれだけの効果があるかの見通しははつきりして居るのでしょうか。

大林 先日安本長官が大阪へ来られての話では、日本経済がアメリカの援助を受けて居る状況では、その援助を不急不要の消費に使用することはできない。少しでも日本の外貨獲得高を増すためには直接輸出に関係する生産面に充てねばならぬと云うことでした。アメリカでは既に前から国防生産法に基いて軍需動員局と云つた様な所で、民需をあまり圧迫しないでコントロールし軍需生産を増大する政策を実行して居ます。昨年10月初めには鋼材その他金属類の使用制限をしています。今年の1月頃にはホテル・キャバレー・劇場などの規模を制限し何坪以上は当分建てさせないと云う法律が公布されたことを新聞で見ました。日本に居るスキヤップとしてもアメリカ本国がそうして居るのに日本は放任して置くことはできないでしょう。

白石 実際にどれだけの鋼材が日本で生産されその内の何パーセントが建築に使用されて居るのか、建築に使用する鋼材が殆どそのまま他の生産に向け変えられるのか。その辺が例によつて政府の発表が頼りない気がします。敗戦直後待合、醬料理屋、ダンスホールなどは建たない筈であるのにどんどん新築されて結局一番制限の負担をしたのは庶民でした。それと同じ様に今度も建てる資力のある者は結局建てて、庶民の鉄筋アパート等が結局建てなくなるのではないのでしょうか。

大林 法律の適用の範囲が問題ですね。日本人は元来政治と云うのは上の者がやることで自分がやることだと思つていない。だから政府は取締ろうと考え人民は網をくぐろうと考える。アメリカでは法律は社会の幸福の為に自分達が作るもので、つまりは自分の幸福の為である。だから一時私生活の不便を我慢してもそれが結局自分の生活を守ることだと云う気持ちで協力する。だから代議士は月に何万通も色々な人から手紙を受取り、それに返事を出すのに秘書が何人かかかつて居る。日本ではそんなに多くの手紙を受取る代議士は殆ど居ないのじゃないでしょうか。

白石 それで日本に於ける今回の建築制限の具体的影

響はどう云う結果になりましょうか。

大林 ビルディング工事などはストップになる。それだけが工場の建築などに振り向けられると云うことを期待したい訳です。然しそう簡単に行くかは疑問です。工場にしても需要供給のバランスで新築されるのですから例えば繊維関係でも先頃の暴落と金づまりで漸くこれから増設の気運に向つて居た出鼻を叩かれた形です。どうしても増設新設は先へずらさざるを得ない。従つて沖繩工事などが大きな比率を占める様になつて行くでしょう。

白石 建設工事に対する融資の問題ですが、市中銀行による金融は困難でこれ以上期待できない。大蔵大臣も金融引締めを唱える。一万田総裁は渡米中にトルコ風呂が建つたと云うので建築工事に対する金融には特別目を光らして居るとか云う。金融の問題について一つ……。

大林 金融問題は実に骨身にこたえて居ます。勿論これは産業界全般で、繊維関係でも今年春以来は現金がなくて手形時代です。われわれとしては大いに努力しても仲々うまく行かない。余程確実な工事でなければ工事資金も貸して貰えない。まして平素の運転資金などはある枠を超えることは先づ不可能と云つていい。そこで私は思うのですが、何とかしてアメリカの様な建設工事に対する保証制度を実施したいと思うのです。これは工事契約の時に建設業者が損害保険会社に対してその工事が途中で履行出来なくなつた場合にそれによつて生ずる損害を施主に対して補償する様な保険をかけて、その証書を施主に渡すのです。保険料は直接には業者が払うのですが、この制度はその損失を補償しますから施主も安心であるし、また無闇に投げ出す様な業者は保険会社が相手にしませんから自然に真面目な業者が残る様になる。尤もこの保証制度は先づ官公庁の様な一般公入札又はそれに近い工事に対して法律で定めてやることにしないと仲々実現は六ヶ敷い。

白石 その保証制度を設けるとしても、結局金融資本の力によらねばならない。金融資本に対する建設業者の信用を増すことがやはり必要ですね。

大林 勿論そうです。そこに業者に対する関係者の信用といふ仲々デリケートな問題がおこつて来ます。尚アメリカでは国連ビルが一つの工事で最近に保証したものとしては最大です。ダム工事などは危険が大きいから保険料は相当高いものでせう。

白石 話題が変わりますが、建設業の立場から設計者に対する希望について……。

大林 完全な図面仕様書を作つて頂きたいと云うことです。勿論現場説明でも補足されますが、完全な図面仕様書によれば見積りも完全なものができます。それと予算を設計の際に充分考慮に入れて置いて頂き度いことです。本当に必要な費用は公平に見積つて置いて頂きたい。私共としては実際に一々の材料と手間を真剣に見積らせる。それでも時期がずれて材料のコストなどが予想以上に上るので困るのですが、その様な場合にも設計を勝手に変更することは道義上許されない。充分施主に納得して頂かねばならない。実質的予算と云うことが必要な訳ですが、これに対して建築家も建設業者も協力して良い建物を作る必要があると思います。

白石 建設業者の設計、所謂設計施工が大阪ではかなり盛ですが、それについて御考えは如何ですか。

大林 私の会社にも設計部がありますが、本来は建設業者は与えられた設計に従つて忠実に施工すると云うことに専心没頭すべきものだと思います。設計と施工と云うことは立場が違うのですから、私個人の考えから申しますと将来は当然分離すべきものだと思います。そうなんつても施工のみで立派にやつて行けなければならないと思うのです。

白石 先程沖繩工事の話が一寸出ましたが、先頃迄は業者があまり気乗りしない様に聞いて居ましたが、もう少し詳しく御願ひできませんか。

大林 再び沖繩工事が大きな意味を持つ様になると思

うのです。つまり内地工事が減少し、いきおい沖繩工事をやる様になる。例えば紡績関係なども一応工事はすんでしまつた。それに今迄の様に沖繩工事が損をして帰る有様では、お互に気乗しなかつた。勿論不当に高率の利潤を得ることは許されないのは当然ですが、然しそう云う事も改善せられつつありますから、これからは、やれると思います。また例えば今迄はクレームにしても最後はワシントンに訴えねばならない。そうなるとアメリカの弁護士を頼まねばならない。それではできないも同様なものです。それが一定の金額以下のものは東京で解決できる様になつた。それでかなりやり易くなつたのです。

白石 アメリカの註文工事の時には、日本人がビスネクライクでないと云う話がありますが、例えば設計変更でもちゃんと責任者のサインを貰つて置かない。それが元で後で紛争が起る。

大林 そうなんです。必ず書類にして先方のサインを貰うとかして置かねばならない。その点日本人の習慣で後から何とかして呉れるだろうと思つて居てもそれは行かない。また理論的には正しいことは主張しなければいけないですね。

白石 それではこの辺で……。

大林 施工法或は工事の機械化のことを話したかつたのですが、今日は時間がないのでまた他日御話ししましょう。（談話者・大林組社長）

近頃考えること

尾崎久助(談)

ビロンの風呂敷やテーブル掛けにレースの模様がついている。丁度鋼製家具やエレベーターのケージに木目がブリットしてある様なものである。

ビロンの特色を生かした装飾が考えらるべきだが、もとのレースの模様から脱却できないのである。何でも全然今迄の手がかり無しに創り出すことは難しいが、なるべく早くビロン独特の意匠が考えられねばならない。

然しそれは急にはできることではないだろう。ギリシヤの石造建築にはそれ以前の木造建築のなごりが見られるし、鉄筋コンクリート造に昔の石造アーチの形が知らず知らずの内に顔を出す。

この様な過渡的な状態は早く脱却せねばならぬのだが歴史が教える通り仲々急には行かぬ。結局時をかさねばならないのであろう。

私は時代の力の偉大性を感じる。そこで私は日本人がむやみに所謂独創にはやるのはどうかと云う問題を考えて見度い。エジプトの文化が歐洲に影響してギリシヤ、

ローマの造型美術となつた。

更にロマネスク、ゴシックに移つた。その時代毎に共述したゴシックなり、ルネッサンスなりの中にあつて各国に立派な芸術が栄えた。それは必ずしも外国の模倣をさせて独創の苦勞をするのでなければならぬとはいへぬことを示している様に思われる。

鎖国をして居れば独特の文化が栄える。外国の模倣をしたくつても出来ないから自然独創的ならざるを得ない訳である。

例えば日本では徳川文化などがその例である。然しそれは独特のものであつても非世界的な文化であると思う。非常に交通力の発達した今日ではその様な文化は存在しようがない。

世界が狭くなるためであるから、国土風俗の特異性はファクターとしては小さくなつた。日本文化も国際文化の推移にとけこむのは当然だと思う。

日本人の芸術のうち陶磁器について見れば、古九谷は

せいぜい数十年、柿右衛門は初代以外は大したものを作っていない様である。

いわんや木米や仁清は全くその人の芸術である。織部や志野も殆んど同様である。

備前や信楽は個人的な技巧をもてあそぶ余地が少いせいで、却つてその土地に即して比較的永く栄えている。そこへゆくと中国の陶磁器は規模が大きいと思う。

官窯であるから作者の名前が判らぬのであろうが、個々の作者の力でなく、定窯は定窯として、磁州窯は磁州窯として、誰の力でもなく完成されて来ている。

それは木米や仁清の作つたものよりも根強く普遍的で大きな生命がある。そこで私は個人的な独創も大切であるが、それよりも普遍的な様式の偉大さと云うことを感じるのである。

又別な例だが、昔は各国に大礼服と云う金色サンランとしたのがあつた。日本の大礼服などよりむしろ小国のそれの方が面白かつたのではないかと思うが、それはそれとして今日では男の礼服は大抵燕尾服やモーニングになつたし、将来は又別な形のものになるだろう。

何れにしてもこの礼服の変化を見ても、それは世界的共通様式として存在し且時代と共に推移して居るのである。

今更日本古来のものだとして羽織袴を持ち出すことは勿論、日本だけ独特のものをこれから作ることもできない。

だから寺の屋根の様なものをのせて日本的建築様式などと称しても、その存在は否定されるのである。われわれは世界的な視野に立つより外ないと思う。

建築家の立場から

私は近頃こんなことが氣にかかつて仕方がない。それは近頃の建築家が建築に馴れたと云わうか、どんな建物でも至極簡単に引受けて気易く設計していることです。

然しその建物の依頼者の側では、建築は非常な投資であつて、云わば一生の大事である。

実業家が事務所・工場を建てる際には、それが事業として一大失敗に終るかも知れぬ覚悟を決めての上であらうし、個人が住宅を建てるにも一生懸命である訳です。中には心労のあまり健康を害する人もある。後から方角が悪かつたなどと云うが、実は心身の過労のために病気になるのです。

建築家はその施主の心底をおもんばかつて、同じく充分な覚悟を以て一生懸命に努力すべきです。此頃の若い人の設計はどうもそうでない。そこまで痛烈な覚悟では

だから私は日本の建築は卒直に戦後の外国の作風をもつと真剣に研究して其の精神をとり入れたデザインにしたらいと思ふ。

それが世界的な傾向であるからだ。そうしている内にその中には自然に力のある人によつておのずから独創的な生命のあるものも作られるであろうが、そうして多くの人々によつて永い間に沢山の作品が作られて、それを後世から見ればそこに1つのスタイル(スタイルと云つても今までは広い意味にならうが)が認められる様になる。それが自然だと思ふ。

ただここに模倣に対する警しめがあることを注意したい。その1つは個人の作風の模倣と云うことだ。ライトの帝国ホテルを模倣している間に、ライトはもつと先へ進んでいるし、コルビュジエをまねていれば彼は既に新しい境地に達して居ることに気がついて居ねばならない。

もう1つの警しめの例は、ライトが大谷石を盛に使つたのを模倣した人の失敗である。

大谷石は実用的には、階段や通路の床に使えば磨滅するし、女のハイヒールがはさまつたりする。

同じ様に震災後一時盛に使われた日出石の例がある。これは既に昔に試験済で使わなかつた材料なのである。

北向の日当りの悪い所では菌がついて黒くなり且風化してくずれる。これは末梢的な模倣に対する警しめである。

末梢の模倣を事とせず清新な感覚に学ぶ所があつてこそ個性の生命に輝くデザインが出来るのであろう。

(談話者、日建設計工務株式会社社長)

竹 腰 健 造 (談)

ない様に思われる。

施主の立場を一向に考えぬ建築家がある様です。例えば建築費の問題にしても、施主は無尽蔵に金をもつてくれる様に思っている建築家がかなりあるのではないか。施主は百万円の金をもつていれば一千万円に使いたい。だから施主のもつている建築費の予算はぎりぎり一杯どころか無理をしているのです。それを考えねばならない。

話は全然変わりますが、施主は自分に似た性格の建築家を選ぶ様に見える。酒の好きな人は酒の好きな建築家を選び、生真面目な施主は生真面目な設計者に依頼する。だから建築家を見れば施主の性格が判り又その逆も真の様です。

それはそれとして、建築事務所の立場から見ると、近頃は建築家のエチケットが落ちたと思います。建築事

務所の経営そのものはそう難しいものではない。然し施主の信頼を得ると同時に建築家仲間でも尊敬される様にすることが難しいが大切なことです。建築事務所はそうありたい。だから「安くて早い」などと称して無責任な設計図を濫造するのはどうかと思う。

大体建築設計と云うものは個性的なものです。アメリカでは経済の規模が大きく建築の規模も大きいので建築事務所の所員の数も多い。

また日本でも今日では昔の様に一人の建築家が構造計算も設備もやると云うことはできない。夫々分担をしてやらねばならぬ様に専門化して来ている。

然しそれらを統一するのはあくまで一人の建築家であるべきで、私も若い頃は建築事務所を大企業化しようと考えて居たが、近頃はそう思わなくなつた。弁護士や医師と同じ様に、依頼者はその人を信じて信頼するので、病気の時には代診でなく先生自身に診察も手術もして貰いたいと同じだと思う。だから1つの建物の設計に当つて平面計画は誰がやつて、立面計画は誰がやると云う風に分担して最後までやれるものではない。

最後は1人のアーキテクトが隅々まで注意して統一せねばならない。アーキテクト・コラボレイティブとか云つて何人かの共同で設計しようとする方法があるそうだが、私は独立でやつて行く力量のない人が止むを得ずそうしているのだと思う。

現在の建築設計料は勿論安すぎます。だから本来細分できない管の設計の仕事を何人かの分業にしてしまつてあたかも工場の流れ作業の様に設計の大量生産をやる事務所がある。

とても1人の建築家でそんなに多くの設計を統一することはできないのだから、そうなれば粗製濫造を免れない。それにつれて設計料の相場が下り、真面目な設計事務所が苦況に落ちいる。

大体日本では建築家の社会的地位が不当に低いのだがそんなことをして益々自ら地位を低めているのです。

そもそも建築家程完成するに長い期間を要する職業は少い。学校教育を終わつてもすぐ設計をすると云うことはできない。

外国では学校を出てから建築事務所へ勤めてそこで長い間所長の薫陶をうけて相当の年配になつてやつと一人

前になる。

そんな風に建築事務所をアトリエの様にして若い人を育てる余裕も近頃の日本の事務所では余りないし、若い人も生活に追われている。しかも下宿の四畳半住いでは立派なデザインをする環境にいるとはいへません。

ともかく本当の建築設計と云うことは余程の広い知識と経験が無ければできない。

私は近頃の若い人の設計を見ると危い気がする。日本に適合しているかいないかも考えずに直ぐ外国の模倣をする。

文学でも同じですが、建築でもグロピウスが流行すればグロピウス、コルビュジェがはやればそのまねで、少しも消化しないで丸呑みをする。そうした浮わついた気味で居ると40才前頃迄に一度はひどい失敗をするのです。

或る人は暖房ボイラーの入らない建物を設計した。又ある人は水洗便所にして浄化槽のことを忘れて失敗した。こんな大失敗は別としても、建築家はその建物が本当にどう使われるかを知らない為に出来た建物が不便であつたりする例は多い。

建築は設計者の物でなく、実際はその建物を使用する人の物であり、また社会の所有物なので、建築の設計を依頼された以上は実に重大な責任があると云うことを痛感しなければならぬ。

学校教育のことですが、新しい教育制度は結構だと思ひます。

建築家は広い教養が必要なので新制大学の教養課程は良いことだと思います。

然し日本の大学では本当に設計の指導をすることが出来ないのではないのでしょうか。私の学生時代には大学では設計はあまり教わらなかつたが、今日でも同じではないのでしょうか。

設計の教育と云うことは、寺小屋式個人教育でなければいけないことが多い。私が見た外国の学校では教授の下に助手の人がいて、その人がまるで学生の友達の様になつて手をとつて学生の指導をしていました。

自分で鉛筆も引き色も塗つて半分設計をやつてくれるそれ程丁寧に学生の面倒を見ていました。

それに日本の大学の建築設計の先生は学者であつても建築家でない人が多い。それに官立の大学では先生が設



建物クリーニングの店

創業30年 古い歴史と新しい技術

ビルディングのクリーニング工事 } 請負
古い住宅が新築同様になる美素工事
新築住宅にお手入れのいらい美素工事

株式会社 美素工業所

大阪市東区瓦町(堺筋)三和ビル3階 電話北濱⑤5888番



カタログ贈呈

計事務所を持つことが許されない。

だから優秀な腕であつても発揮できず、段々実際の設計から離れて、しまいには机上の学問に没頭してしまう。外国では大学の先生が皆建築事務所をもつて実際に設計をやっている。それが本当だと思う。

日本でも私立ではそうしている。だからこのままで行けば設計に関しては私立大学の卒業生の方がよいと云うことになりはしないかと思ひます。

それに学校教育では充分建築の基本的な概念を養つてほしいと思ひます。基礎的な知識がなくて徒らに新規に走ることはいけません。

イギリスの画家オーガスト・ジョンは40才になる迄デッサンばかりやつて色は使わなかつた。

絵画でも大切なのは基本教育のデッサンです。宗達や光琳の画稿を見ても栖鳳のスケッチを見ても実に緻密な写実の労苦をかさねている。そう云う努力を望みたい。

設計と施工を分離すべきことは云う迄ありません。この問題については当然早くと云うだけで最早論ずる必要がない。

それよりも私は建築設計者が工事の監督に当ると云う問題について考えがある。

それは今日では建築家が監督をすると云うことを一般に怪しまないが、私はこれはやがて廃止すべきだと思うのです。

ジェネラルコントラクターが工事を請負つた以上は、図面仕様書の通りに忠実に施工すべき義務があるのだから、下請なり職人に対しては請負業者が充分責任を持つて監督すべきである。

請負の現場主任はその監督責任者であるべきです。勿論それには請負業者の道義心が確立する必要があることは云う迄もない。

現在では残念乍ら請負業者がもう一つ信用できないところがある。だから今日直ちに実行はできないかも知れないが、やがてはそうすべきだと思います。

請負業者が信用がされ難いのは近年のことばかりではない。ナポレオンなどは請負人を全く信用せず大嫌いであつた。工費は請負人の云う半分支払えばよろしいと云つてゐる。

また或る時ナポレオンの皇后だつたが首飾が欲しくなつたが、ナポレオンが買つて呉れない。そこで内務大臣に云つたら、内務大臣は病院建築の請負人に買わたせたと云う話がある。昔からそんな事をした。或はマジノ線の工事に関する噂話もある。

何れにしても古今東西を通じて請負の道義は確立されて居ない。今日では請負主腦者の方は立派な方が多いが下の方には未だに信用できない人がいる。それが全般的に向上しなければならぬ。その代り施主の方でも請負はいくらでも値切れると云う気持は捨てねばならぬ。

何れにしても請負制度は合理化されねばいけない。やはり将来はコスト・プラス・フィー・システム（実費報酬加算）にあるでしょう。

現在ではこのシステムでやつても、下請の出す請求書が二通あつて、一つは本当の金額で一つは表向き金額であつたり、リベート（割戻し）の密約があつたりしてややこしいから、やはりうまく行かないが、やがてはそうなるべきものでしょう。（談話者、日本建築協会々長）

今日の日本の建設業について

大 林 芳 郎

大林芳郎氏と編集委員長が対談を行つた後この稿の御送附を受けた。対談当日話し残されたことを別に御執筆頂いたので、併せて御読みたい。（編集部）

いつのときでも建設業者の競争はきびしい。

最近では特にそうである。このことは日本に限つたことではないようだ。アメリカの昨年度の建設業協会の定例大会の議事録を見ると一昨年から昨年にかけてアメリカにおける建設業者の競争は非常に激甚となつて、時には自殺的入札が行われることもありこのまゝで推移するなら倒産者が相当出るだろうということが記されている。しかしなんといつてもその激さの程度が違ふ様である。アメリカでは幾ら競争といつても利益をふつとばしてまで競争をするというような無茶はやらない様である。まづ誰が見ても妥当とおもわれる利潤というものは必ず見

込でにおいてその上でしのぎを削るのである。従つてその競争は施工方法の真剣な検討ということでその勝敗を左右することが多くなつて来るだろう。

残念ながら日本の場合にはこうは行かない。大いに自衛してお互の迷惑にならないように真剣にならねばならぬと考えてはいるのだが、いざとなると丁度電車を待つ乗客のようなものである。お互が自分だけのことを考えていたのでは何のために列をつくつて並んでいたのか判らない。わつと押かけてはたまつたものでない。軋（こ）みふまれる、ボタンは千切れる、不愉快な気持は残る。格闘のために出勤するまでにクタクタに疲れてしまう。

昨年建設業審議会で入札合理化の案が出来た。あいような案をつくるということ自体が果してその対策として妥当なものであるかどうか又たとえ妥当なりとしてもそれではあの案が最良であるかどうか。これ等のことは一応さておいて建設省があの案を適当と考えるならば先づ官庁工事にこれを実施することを考えるべきだともう。官庁の工事はその工事の財源が国民の税金によつてまかなわれるのであるからその予算も厳正なものでなければならずその工事を施工する者は一応能力のある者であれば誰れでもこれをなすことが出来るチャンスを持つ権利が与えられなければならない。そしてしかもその出来上つた工事についていえば正しくその予算が使われ且つその工事の出来ばえも立派なものでなくてはならない。官庁工事は彼様な性質のものであるからあの合理化案によつて正しい入札が行われ工事の適正化を期待することが出来るものであるなら先づ以つて官庁工事の発注に当つてこれを採用すべきであろう。建設省は建設工事の制度などについて主務官庁であるから特に他の官庁にさきかけてこれを実施する勇氣をもつて欲しい。併し私個人の考えを申げるならば果してあのような案がどれほど効果があるか何とも云い切れない。

私は最後は業者自身の自覚如何だと思ふ。お互いのために自分を抑制することが結局全体を改善向上させることになるのだということを業者自身が気付くことが第一だと思ふ。こういうことをいうとせまい日本にこれだけの人間がいてしかも建設業というものはごく僅かな人数でやりようでは素人でもやれないことばない様な職業なのだからそれだけの建設業者を満足させるだけの工事量はとても今の日本の経済力には期待出来ないのだから結局需給のバランスがとれない間はいつまでたつても競争は緩和しないということがいつも一方での話になるのだが。

血の出るようなやり方で仕事をものにしたらとて日本全国の工事量が増すわけでもない。施工の責任に良心的な業者にとつてはこの様な出血工事は施主に一方的な

サービスを行うことであり万一良心のどこかが欠けている業者があるとせば施主は実に迷惑千万又その責任を問われれば一業者のことにとまらず業界の信用にも影響するというものである。これ等のことを業者は真剣に考えねばならぬとおもう。

アメリカで実施されている保証保険制度は無暴な入札を排除すること。工事の完全な履行を保証することなどの点から施主に対して建設工事に伴う各種危険、被害から保護するものとして近時一般公入札には大いに活用されて居り。単に施主の保護にとまらずひいては施工業者の信用の裏付ともなることになるというのであるから大いに注目されてよいとおもう。特に入札制度合理化の対策の一環として日本では真剣にとりあげて検討するべきであるとおもう。

戦後、建設工事の工期が馬鹿に短くなつた。短くなつたといつても自然に短くなつたのではなくて施主から非常に短い工期で工事の完成を要求されることが多い。戦前常識になつて居つた期間より遙に短いことを要求される。時代がすべてのことにスピーディーになつた影響もあるだろう。施主の方の資金の都合などにも関係がある。原因はなんであれ一般世間がそういうことになれば吾々工事を引請ける方でも出来る限りのことを考え実行してゆかねばならない。それが商売というものであり技術である。

今日の日本の建設工事の速度の水準を現在以上に高めることは大いに余地のあることと思ふ。建築業者だけでは不可能な点も少くないが建築業者だけで考えて見てその施工方法などでまだまだやることが山ほどある。その中でも特に大切なことは施工を機械化することだと思ふ。機械を馬鹿にしてはならない。機械を馬鹿にするような人は今日の日本の建設業者にはないだろうがまだまだ機械になじまない人が可成りあるのではなからうか。機械になじむことが先づ第一だ。

これからの建設工事は一般の機械工業と同じ様に機械が工事を実施するという考えにならなければいけないと思ふ。機械を使うには機械を信頼することが出来なければこれを思う存分働かすことが出来ない。機械を信頼するには機械の構造、性能使用法をよく知つて居らねばならない。いくら機械の性能が良くてその能力が素晴らしいものであつても工事費の採算に合うものでなければ営業面から使用不可能とうことになる。従つてあまり価額の高いものでは償却が容易でないし第一買うことさえ六ヶ敷い。たとえ安く買へても修繕ばかりしている様なものではこれまた困りものである。私は機械というものに多少興味をもっているので建設工事の機械化の問題と大いに取組んで勉強してみたいと思つている。

(筆者・大林組社長)

サッシュ・ドアー・シャッター
鋁金製品・自動車々体
部品・車輛・発動機

日本建鉄株式会社

大阪事務所 大阪市西区江戸堀上通二ノ五七
電話 土佐堀 ④ 2188 番
本社及 東京都荒川区三河島七ノ七八〇
東京工場 電話 下谷 8155~8159
中川工場 東京都葛飾区奥戸本町一〇〇〇
電話 本田 190・196・1018
船橋工場 千葉県船橋市海神町二ノ三五〇
電話 船橋 509~511
丸ノ内 東京都千代田区丸ノ内二ノ三
営業所 三菱新館内 電話 丸ノ内 973・4501

建築を志す学生諸君へ

東 畑 謙 三

終戦後の茫然とした年月もどうやらすぎて早やあれから満6年になる。

戦後と云はず戦時中でも今から思えば建築技術の上から云えば全くの空白時代であつた。ところが最近漸くおちついて来て若い人々の間に建築術に対する態度に非常な真面目さを感じる様になつたのはさすが我が国民性のあらわれとして嬉しい次第です。聞けば大学の志願者中にもこの建築学を志望する人が急速度が増して来たそうであるし、又小学校の生徒に何になるかと聞くと昔は軍人と云つたであろう小供が建築技師になりますと云つて以外の感にうたれる場合が多々あるのも、一般人が建築に関心をもつて来た証拠と云い得られよう。

然しながら建築術と云うものがそう容易に入門出来るものだろうか。女学生が洋裁にあこがれ又その技に入れる様な容易な道であろうか。勿論終戦後建つたバラックを見てみると当時の世相や貧困な建築材料のせいもあるがあれらをみていると建築への道はいかにも容易である様な感じがする。スタイルブックを見て洋裁が出来るより尚ほ容易の様である。

近代建築思想の指導精神は1には目的に合ふこと、2には材料を正用すること、3には構造を合理化すること、この3つである。この三主潮は何も近代において始めてとなえられたものではなくて、実はギリシヤ、ローマの時代にも、ルネッサンスの時代にも均しく云われた事なのであるが、その目的、材料、構造のそれぞれの内容が根本的に進歩して行くにも拘らず、いたづらに外形のみにとらわれて、建築の本質をわすれたところに問題があつた訳である。建築史をひもといてみても時代のごく初期においては各々その創られる本質があつた。それが爛熟されてくるといつとはなしに単に型式を追う様になつてそれがロマネスクとかロココとかの時代を生じてしまつたのである。

私が若い人に望みたい事は建築への道はそう安易に考

えてはいけない事である。もつと基礎学科を学問したい事である。目的の本質を考究する事、近代の生産過程をへて創られた建築材料の性質を研究する事、構造学の基礎理論を深く研究する事、等建築への道はそう簡単ではないのである。この基礎学科を修めずして建築を志すならば、又そんな人が多ければ、ここに亦モダンロココの時代が出てこないとも限らない。表面のみの建築を愛せずしてもつと建築を学問的に愛せよと云いたいのであるポスターにある様な建築が本当の建築であると思つたら大変なのである。

ここに誤解があつてはならぬ。科学への道のみを歩いてはたして良き建築が出来るかと云う問題である。もとより建築材料は文字通り木石であつて生命も生長もなきものである。鉄、セメントは冷めるとき血もなき、死んだ材料である。構造理論之れ全く科学である。計画原論之れも亦科学である。これらの科学によつて裏附けられた智識によつて、これらの死んだ建築材料を用いて、生きた建築目的を如何に把握するかそこに建築技師としての創作の領域があるのである。建築が芸術であるとか、凍れる音楽であるとか云はれるのはその領域を云ふのであつて、それが科学に依つて裏づけられてゐなければ、それは単なるポスターを画く人と何等かわらないのである。ビン構造に向つて細くなつて行く柱の美しさを味はえる人は構造上それがそうなることを良く知つてゐて始めて味はえるのである。

一時は失望のどん底にあつた建築界も漸く本調子になつて来た。15年間の空白を取りもどす機会がせまりつつある様に想われる。先人のまちがつた道を忘れてしまふには空白の時代のあつた事がかえつて良かったとも云い得られる。建築界は若い人々に期待をかける事が極めて多い。若い人よどうか学問して下さい。

(筆者、東畑建築事務所々長)

ペデスタル杭
太洋組株式會社
大阪市北区綱笠町堂ビル
電話堀川 951 1820.

床^{フロア} → 保護・衛生・美化
艶出し
ケントク ワックス
大阪東區ガスビル裏 K.Kケントク 電北浪(28)4905

私 の 心 境

安 井 武 雄 (談)

質問編集 白 石 博 三

白石 今日の対談にはテーマはありませんので自由に御話し願いたいのですが、とにかく話題を出す意味で近頃のデザインの傾向からでも御始め下さいませんか。

安井 私はアメリカしか外国をしらないので却つて、そう思うのかも知れませんが、アメリカのデザインは嫌いなのです。良い悪いは別として嫌いです。近頃はそのアメリカ式が日本に多いが、もう少し落付いてデザインをしなくては行けない。近頃の日本のデザインは上滑りしている様に思います。

白石 先月村野藤吾先生に御目にかかった時、先生はこの戦争の為にわれわれは10年と云う空白を持った。そして今日アメリカのデザインが一時に流れ込んで、多くの人がそれを猿真似しているが、われわれはそうでなくやはり先ず10年前の段階に立ち歸つて、そこから一歩一歩研究しつつ前進しなければならぬと仰言いましたが…

安井 私もその説には一寸共鳴しますね。それに私は戦争のために外国との縁が10年程切れた。その為に日本の文化の進展が遅れもしたが、また一方では外国の後ばかり追うことはできなくなつた。その間は藤原時代の様に日本独特の文化を育てる良い機会であつた筈です。西洋建築を日本に同化する機会であつたと思いますね。

白石 とにかく今日の若い建築家の設計はアメリカの模倣に汲々としている。爪先立ちのせい伸びをして少しでもアメリカに近すこうとして、日本での可能の限界一杯のところまで無理な仕事をしている様に思いますが…

安井 私はできるから直ぐやつて見ると云うことはあまりし度くないですね。根本的な條件が整わないのにそう云うことをしては無理が起ります。しかもやつと真似たと思つたら向うはもう先へ行つています。

日本では西洋建築の歴史は極く最近からですが、西洋ではそれは古い伝説をもっている。だから今日の西洋建築をいきなり模倣するのでなく、その伝統を先ず理解せねばならない。西洋建築史の研究はそう面で見れば新しい意味を生んでくる。古い歴史と切り離されて現代建築が存するのではない。そして今日の現代建築は明日は過去の歴史の中に編入されて行く。その点を理解して現代の外国建築を見なければならぬと思いますね。

白石 私はその点は学校教育にも責任があると思います。日本の建築史家は過去の建築を過去のものとしてのみ取扱つている。外国の建築史家が全般的にどうかは知りませんが、Nicolous Pevsner などは過去の建築を現

代につないで見て居る様です。日本の場合は致し方ないなり、或はそれはそれとして正しいのかも知れませんが建築歴史の學問が学生にとっては現代建築の設計とあまりに関連なく受け入れられていることは問題があると思います。

安井 現代建築の設計をするにもモールドイングなどは過去の建築の歴史を通じて研究する必要がありますね。そうしないとしくり行かない。

白石 それはそれとしてアメリカのデザインが御好みでない理由は具体的には何なのですか。

安井 アメリカのデザインと云うが、あれはデザインじゃない。ビジネスです。

白石 今日アメリカのデザインと総称していますが、実はヨーロッパの建築家がアメリカに来てやつているのが多いですね。

安井 そう云う風に一々正体を見きわめて振り分けければ別だがアメリカの建築は見世物なのです。それを鵜呑みしたりしないで、それよりも現代建築はどこからスタートしたかを考える方がいいでしょう。もつと落着いたものでやりたいのです。余り云うと叱られますね。

白石 アメリカと日本では社会状態が違う。それを考えないで直写することは無理ですね。

安井 そうした日本の近頃の建築は本物ではない。芝居の書割です。生命がない気がする。私はそんな設計はしたくないと思います。

白石 それでは先生は現代に於てクラシックなデザインをする事に対してはどう御考えですか。

安井 私は現代には現代の様式でやるべきだと信じます。私は学生時代からクラシックなデザインはしないと考えていました。現代には現代にふさわしい建築を設計するのがわれわれの態度であるべきだと思います。私はだからヒストリカルスタイルの設計は依頼されても引受けません。ゴシックは芸術としては立派であつても、建築全般としては幼稚です。その装飾だけを今日の建築に応用することは意味がありません。自然は造物主の造られたもので美しい。建築は人間が造るものですが、われわれの努力が足りなくて美しくないものを造つて地球を汚したくない。だからその時その時にふさわしい新しいもので良いものを造りたいと思います。それが本当です。東京で一番美しい建築は何かと聞かれたら私は日本銀行だと思ふ。然し私はこれから再びヒストリカルな物をや

るべきではないと思います。

白石 現代建築はともすれば飛んでもないものを設計する危険を内包している。それは昔の様に設計の規範がないからである。だから現代建築にも規範が必要だとは御考えになりませんか。

安井 私はそこまでは考えたことはない。然し一定の形のプロポジション、そういうものはあるでしょう。

白石 そう云うものが客観的に今日も立証しえますでしょうか。

安井 それは自分で自分の尺度をつくるべきでしょう

白石 その際に昔の様に主として視覚的なものからのみカノンなりモデュールが作られるのではなく、もつと別なファクターが今日では大きく加わって作用する。

安井 勿論昔と今とは違う筈です。

白石 その規範は作品を通して探究されるのでしょうか、それとも理論的に考えられるのでしょうか、何れが主と御考えですか。

安井 それは理論的にも考えられねばならないが、それよりも先ず作品を通して求められるべきでしょうね。

白石 それにつけても建築批評の必要性が痛感されます。それと同時に建築は純粋芸術と違うのですから、建築家が唯設計をするだけでなしに、その設計について語ってほしいと思うのですが……。

安井 この間も新聞記者が来て、他の芸術には盛に批評が行われるのに、建築批評はあまり行われたいのはどう云う訳かと聞きました。何かやり難い点があるのかと云うのです。確かに純粋芸術とは違ってやり難い点はある。然し私は是れとも建築批評が盛になることを希望する。私自身の設計は非難されてもかまわない。それが真面目な批評であれば良いと思う。

白石 実際の建築には多くの制約があるのですから、局外者には判らない事情があつて、設計者には気の毒な批評になるかも知れない。然しどの様な事情があつても客観的に悪いものは悪いのですから仕方がない。またそれが設計者のせいでないなら、設計者が事情を明かにして答えてくれたら良いと思います。そうすれば仮りに施主の無理解であつたとしたら、施主を啓蒙することが出来る。また建物を建てる時に存じた事情は、ずつと先になれば、そんなに大きな意味はなくなると思うのです。昔から事情のなかつた建物はないのではないのでしょうか。今日ではその事情は判らなくなつて、良い建築は良く悪いものは悪いと客観的に評価されています。

安井 そうです。われわれが古建築を見る時には一々建てた時の事情など考えない。

そうしてわれわれは多少叱られなければいけないのです。昔から建築家は設計を頼まれると、施主は甚だ真剣なのですが、建築家にはこの際自分の好きなことをやつて見よう云う遊戯的な気分が伴うものなのです。それ

が近頃は益々激しい様に思います。そう云うバラツク建築と云うか、生命を考えない設計は私はしたくない。

白石 そう云う意味から建築事務所のあり方について……。

安井 私は近頃のクライアントは良く物が判つていると思います。昔の様に頑冥なことを云われることはなくなりました。然し仮りにそう云う方があれば充分脱得する努力が必要です。それでも判らなければ設計を引受けません。

白石 然し建築事務所の経営は仲々困難で、相当に仕事の量を確保しなければならないと云う向もありますが……。

安井 私は詮じつめれば建築家自身が悪いと思う。建築の設計はビジネスじやない。建築事務所の価値は所長のデザインの特色が発揮されなければならない。それが可能な限界以上に設計を引受けて粗雑な無責任な設計をすることは間違っています。勿論まだ社会一般に建築設計と云うことが充分認められて居らず、設計料が安いと云う点もありますが、それでも設計監理の報酬の協定がありながら、それを自ら破り自らを苦しめる建築家が居るのは残念だと思います。

白石 新制大学がやたらに出来て建築の大学卒業生が大量生産される。それが慶賀すべきことなのか、それとも建築家が大量生産されることによつて却つて選ばれた少数者としての責任感が薄らいで行くのか、どう御考えでしょうか。

安井 確かに近頃は建築設計を何でもない易しい事と考える人が多くなりつつある様ですね。それが大学卒業生の大量生産と関係して居るかも知れません。建築設計と云うことは重大なことで軽々しくできることではありません。私自身としては建築家は社会的に重大な立場にある者だと思つてやつて居ます。

白石 最近の建築材料について何か……。

安井 私は最近の外国の様子は判らない。近頃の日本の品に不満足を感じることは事実ですが、だから国産でよいものがないとは思わない。無暗に外国品と同じ様なものを作ろうとするのでなしに、国産の材料で別な良い物を作ればよい。遠慮せずに独特のものを作るべきです。

白石 外国で新しい材料ができたと云うと直ぐ日本でも同じ様なものを作る。前のが一応完成しない内に次々と新しいものを追うことばかりに熱中している様に見える。だからどれも不完全なのではありませんか。

安井 今全盛のプラスチックにしても、アメリカがやつているからと云つて、一年や二年後に日本でも真似なければならぬことはありません。生活様式も経済機構も違うのだから、アメリカで流行するものは必ず日本でも応用しなければならぬことはない。

白石 アメリカで矢張り新材料が作られると云うのは、古くからある材料の販売では仲々増大することが難しい。ましてや新規開業の業者では古い業者に太刀打ちできない。新材料はそれ自身に宣伝的要素を有しているから、割に販売政策上有利なからではないでしょうか。

安井 現在アメリカとイギリスでは物に対する考え方が相当違ってしまった。イギリスの自動車は10年たつても壊れないで立派に走るし、またそれに乗って居ておかしく思われない。アメリカでは10ヶ月で新車新車と買い換える。それは自動車製造業者や販売業者の政策に乗せられて居るので、それが本当によいこととは思われない。アメリカの建築にも同じ様な傾向が見られるので、それで嫌なのです。

白石 建築士法による一級二級の建築士がいよいよできましたが、御意見は如何ですか。

安井 余り猫も杓子も一級建築士で、実はがっかりして居るのです。私の事務所に居る人も普通、昔世話をしたことがある大工も通った。その辺の人で通らない人はない位です。だから一級建築士になったから一級の實力が保証された訳でもなし、また一級も二級も紙一重の差です。今のところでは建築士の資格は何のたしにもならない。

白石 多年建築士の資格を法律化することに努力された方々は、政府に庇を借して「おもや」を取られた様な感をして居られませんか。

安井 建築士と云うのがビルディングエンジニアでアーキテクトじゃない。土木の人でも資格があるのだから。

だから一度本当の「アーキテクト法」なりりアーキテクトのアソシエーションが必要になって来ます。

白石 建築基準法の方は如何ですか。

安井 市街地建築物法の時よりも結構ですね。幾分現代にふさわしくなつた。日本の現在の国情としてはあの位で良いかも知れません。

白石 大阪では依然として設計施工が盛な様ですが如何御考えですか。

安井 先日もある官庁の営繕課長に請負の人が建築事務所に設計を頼むなどはたゞやり方だと云つて盛に説明していました。クライアントの中には、はつきり判つて居る人もありますが、請負に設計施工で依頼する人もまだかなりあるのですね。

白石 設計施工と一緒にやるべきだと云う人は、よく自動車などの例を挙げて、あれはメーカーで設計もして居ると云う。

安井 佐野利器さんは設計施工論者でした。私は野村建設を是非特色のある請負にして呉れと云われて引受けて自分でやつて見て思うのだが、やはり設計と施工を同一業者がやることは不可能なことが多い。先日もある一流の業者の現場を通りかかつて偶然見たのですが、実に啞然とする様なことを平気でやつている。設計施工なのです。ともかくまだ日本の請負業者は昔の請負根性で手を抜くことが改まらない。もつと真面目にやつて頂き度いと思うのです。

白石 ではこの辺で。有難う御座いました。

(談話者、安井建築事務所々長)

建築界の現況に対して一言する

渡 辺 節 (談)

技術者の地位と待遇

私はかねてから日本の官庁や会社が技術者を遇する途を誤つて居ることを痛感して居る。

日本では職務と待遇を一致さす方式であるから、同じ職に永く止めて且待遇を良くすることができない。

待遇を良くしようとすれば、別な職に変えねばならない。ところがどんな仕事でも5年や10年では技術の完成は望まれないのに、学校を卒業して暫く経てば係長となり、又暫くて課長になり、20年も経てば重役か部長になつてしまふ。そうして早くから第1線の実際の仕事から遠ざかつて判ばかり押して居る。

建築の仕事と云うのは特に永い経験が必要なのであるのに、そう云う次第であるから実際に設計や施工の衝に當つて居る人は経験のない極く若い人で、漸く経験のできた人は判をつく役目で実際の建築にはあまりタッチし

ない。

建築事務所などはそうでないが、官庁や請負などは特にこの弊害が甚しい。官庁の設計や請負の施工が拙いのは何れも実際には経験の足りない者が担当しているからである。

職務と俸給を別にして折角経験によつて得られた技術は生かして使える様に、その人にはその地位のまゝで好遇できる様にしなければならない。

官廳に於ける設計

私は今回行政整理案が作られる際に當つて要望しようと思うのだが、それは官庁に営繕課などを置いて設計を行うことを止めるべきだと云う事である。

失業者が出ると云う心配をする人があるかも知れないが、設計の仕事そのものがなくなるのではないから、官庁をやめた人々は民間事務所へ入つて設計に従事すれば

良いので、その点は案ずる必要がない。

そして官庁では企画だけをやれば良い。設計は原則的に民間の事務所へ依頼すべきである。

或は非常に大きな官庁で特殊な建築をやつて居るところは若干自分のところで設計をしてもよいが、小さな官庁迄が建築部などを有し、仕事の無い時も絶えず多くの人を抱えて居ることは国民として無視できない。

何故ならそれはすべて国民の血税が無駄に消費されているからである。何でも建築部を置かないと国庫補助の予算がとれない等と云う様な妙ないきさつで不要に大きな組織になつて居るらしい。

そしてそこでやつて居る設計が未経験者によつて甚だ拙いものが作られて居るのだからお話にならない。

実験も先般の某大都市で国際的な意味を持つホテルの計画が行われた。その際私は当然設計監理士協会で設計をやるべきだと主張したが、結局はある官庁の人が設計をした。

その設計者はホテルに一度も泊つたことのない人で、一体どうして設計をするのかと云うと、あちこち日本のホテルを見て設計するのだと云う。

ホテルの様な建物は一寸見て廻つた位で判るものでない。平素殺風景な役所に勤めて居てホテルには一度も泊つたこともない人などにはホテルの意味は判らない。

しかもその企画案を作る際には、是非民間の一般人やホテルの経営者などと共にディスカッションをやらねばならないと云うことも主張したが、それも行われなかつた。

設計図が出来てから私共も一応意見を述べてくれと云われて、述べはしたが甚だ拙い設計であつた。

泊客用の受付も宴会用受付も2つづつある。それが混雑を防ぐと云う積りかも知れないが、経営上人件費を2倍要することになる。

その他ホテルの経営の問題及びホテルの雰囲気と云つた問題がさつぱり判つて居ない。私達が意見を述べた後で若干改良されたらしいが、大体この様な建築を官庁の営繕課で設計しようとするのが間違つて居るのである。

それを財界の人に訴えたら官庁の補助金を貰つて建てようとしているのだから、官庁の顔を立てねばならぬ。あまりおこらずと拙いと云う事であつたが、官庁の金と云うのは国民の出した税金である。

だから官庁がおこると云う話からしておかしいので、そんな拙い設計の建物が建つ事になれば、怒るのは国民である。

最近のデザインの傾向

昔は1つの建築様式が相当に長い期日継続した。然し近頃は現代様式と云つても、その中に色々な傾向があつて、それがせいぜい10年か20年位で更新されている。それで若い人々は常に突飛な設計をして人を驚かそうと考

え勝ちである。

然し建築物そのものはもつと遙かに長い生命ももつて居るのだから、50年或は100年後、或はもつと先になつても価値のある設計をしなければならない。徒らに一時の流行に目がくらむのが近頃の若い人の弊である。

更にニューヨークの国連の建築は、現代のアメリカに於てあの場所にあれだけの規模に建てられるから、あれで良いとしても、あれを国情の違う日本ですぐ模倣するのはいけない。模倣が余りに多過ぎるのが現状である。

そして設計に対する安易な考えが横行している。新しい京都駅の設計でもその考えは甚だ安易なものに思われる。国鉄の停車場は私鉄とは違つた性格のものである。安っぽいモダニズムや宣伝主義に陥ることは間違つて居る。

外国でも雑誌に出て居る様な建物ばかりが建てられて居るのではない。あれは變つた珍しいものとして紹介されて居るのである。だから本文でなく広告を見れば、決して最新の形がすべてのクライアントに好まれて居るのではないことが判る。

以前大林組に居て今はもう亡くなつた人だが、その人がフランス旅行の途中汽車の窓から素晴らしいモダニスタイルの建物を見たので、特に途中下車して見に行つた。

三階建のアパートかて監理人の話ではコルビュジェの設計であるが、誰も借手がなくて未だに空家であると云う。

コルビュジェを崇拜して居た同君は大いに幻滅を感じたと云う。実用が伴わない建築はどれだけ尖端的な形でも駄目である。建築の設計は落付いた態度でやらねばならない。

建築士法

大体今度の建築士法は本来の趣旨が骨抜きにされている。だから今度出来た一級建築士など格別問題になる様な資格ではない。

請負にも建築士が沢山居て設計もやる様なことでは本当のアーキテクトの資格を法制化したとは云えない。

然しこの様に骨抜きにせねば議會を通過しないと云うのは、その方面の勢力が議會に強いからであらう。

だからこれから追々改良されて理想に近づく迄は、建築士は社会的にはどれだけの価値があろうか。議論の必要がない。

設計と施工の分離

建築士法に表わされて居る通り、日本では未だに設計監理と施工が分離して居ない。然し日本以外のどの文明国にもこの様な矛盾を平気で持つて居るところはない。

佐野利器さんは設計と施工を同一業者で行えと云う論者であつた。自動車などはメーカーが設計も行つて居ると云う人もある。

機械は工場内で生産されるので、製造会社の責任者は

工場内に居て絶えず直接監理し責任をもつことができる
然し建築は現場生産で、請負の責任者は特に現場を見
に行くだけで、実際は下の者がやつて居る。その間の連
絡や監督は行き届かない。

請負が設計すると云うのは日本だけである。日本では
大工の棟梁が設計施工をする伝統が今日も強く残つて居
る。

その上請負で設計すれば設計料が不要であると云う偽
脇の宣伝が行き届いて居るからである。

然し請負で設計をすれば、それだけの費用は請負金額
に当然算入されるに過ぎないことが判らない人が未だに
存在するのである。

しかも何と云つても設計と施工とは互に相反する立場
に立つもので、決して同一業者が兼ねては完全にはできな
いと云うのが根本的な問題である。

建築事務所

建築事務所は依然たる営利事業ではない。また建築設
計は個人的技量によつて成立する。

だから所長個人の能力の限界を越えてやたらに大規模
にすることはできない。

私も昔は50人位の人を使つてやつて居たが、今は15人
位にして居る。その方が無駄がなく且充分私の目が行き
届く。

建設業者への希望

建設業者に対する希望の第1はもつと施工法の知識を
養うべきだと云うことである。

例えば工事用機械に対する知識が足りない。この仕事
に対してはどれだけの施工機械を準備すべきかと云う様
な点の予測がもつとはつきり立てられねばいけない。

科学性、計画性がない。そうしてその計画のツサンな
のを補うために突貫作業と云うことを行う。

突貫作業とは数的根拠のない竹槍戦法である。現場監
督が泊り込みで早朝から夜迄走り廻る。それで解決しよ
うとしても駄目である。

第2に下請工事間の横の連絡がない。1つの材料の納
入が遅れても全体の工事が遅れるにも拘らず、その連絡
を充分取つていない請負が多い。

その点フーラーなどは一週間毎に現場会議を開き、工

程表を検討しお互に工事の進捗状況を知つてやつて行く
ので実にスムーズに進行することを私は経験した。

日本の請負では現場主任にすべてを委せ本店からはあ
まり指導しない様だが、その現場主任に経験の浅い人が
多い。

上述した通り日本では折角経験が出来たと思うと本社
の課長かなんかになつて現場との縁が薄くなる。

その点でもフーラーの現場のフォアマンは実に立派だ
つた。前日に必ず翌日の工事の段取りをすべて行つてし
まう。

1人の煉瓦工毎にその職人が翌日積みべき煉瓦を必ず
前日にきちつとその場所に運んで並べる。翌朝は手待ち
なしにすぐ仕事ができる。

だから釣足場で工事すれば全体が同じ高さで水平を保
ち乍ら上つて行くが、日本の請負ではこう行かない。

最初に申した通りフォアマンはフォアマンのままで昇
給させて行けば、優秀な人物が使えて結局徳なのである
が、そうできない制度を改めなければならないのである。

建築基準法

特に問題だと思うのは、建築主事と云う職は非常に大
きな権限をもつて居て、これが建築家の設計や監理につ
いて監督すると云うのだから、私は建築主事は相当な人
物が相当数居る様になつて直接現場も見廻るのだと思
つた。

然し條文をよく読むと各府県又は市などに1人だけし
か居ないのである。すると実際は地位の低い人が代理で
来て主事は盲判をつくことになる。

地位の高い人はプライドもあつてあやまちを犯すこと
も少いが、私は地位の低い人は大きな権限を持たすこと
は実に危険だと思う。

俸給も少い若い人が誘惑の多い所へ出て行くとすれば
何時かあやしい取引に巻き込まれる。

現に某市では相当な鉄筋コンクリートの大建築が明か
に違法に建築されつつある。

敗戦後制限されて建たなかつた筈のカフェー、待合、
料理屋、ダンスホールが盛に建てられ、建てたものが勝
であると云う現象も生々しいことである。

(談話者、渡辺建築事務所長)

合 会 社 資 大 阪 市 北 区 木 幡 町 三 一 番 地 電 話 堀 川 ③ 四 一 六 四 番	合 理 的 の 工 法 ・ 責 任 施 工	防 錆 完 全 ・ 中 空 防 音	耐 震 ・ 耐 火 ・ 軽 量 ・ 堅 牢	い 式 を 御 採 用 下 さ	は 軽 量 鉄 骨 は 日 進	間 仕 切 ・ 天 井 に

強く優雅な	
リグノイド床	
テックス フローリング 気流式通風器	責任施工
田辺工業有限會社	
大阪市西区江戸堀下通二ノ一七 電 土佐堀 ④ 2677・4471	

「渡辺久純氏の建築観」批判

山 地 英 雄

本誌6月号所載の「私の建築観」(筆者渡辺久純氏)を読みまして、その所説が所謂窓から眺める者、即ちすべてを平面的な主観で公式的に結論する者の建築一般に対する誤れる思索と表現を数多く含んでいたということは、大なり小なりこれをお読みなつた大多数の会友諸兄が感ぜられたところであると思います。

これはその筆者がその職業とされております、ごく初心者に対しての建築的教育として、建築というものの一つ一つの仮定的な概略概念の解析の説明というのでありますならば話はわかります。そこでは低い理解能力を対称として、しかもある限られた少い時間内に、それだけのものをその能力なりに於て了解させる必要があるからです。

ですからそこではその結論の真実の正誤は第一義的な問題でなく、その結論を、たとへ、とりあえず低い仮定的な段階に止めても、大切なのはそこまでもつてゆく思考の組織性なのであるからです。(これは教育一般についていへることかも知れません。)

ところがこゝでは問題がちがいます。即ち建築一般の最先端的な推進力として組織されました私達の建築協会が、その最も有力な意志表示として発行されておりますこの機関紙に於て、このようなことが論ぜられたことであります。

といいますのは、そこにとりあげられました主張が必然的にその機関紙としての背景に大きくうらづけられまして、直接的に建築ジャーナルの形成に大きな力をもつからであります。しかしながら建築というものに、本当の自分の道をさがし出そう

としております私たちにとりましては、少しでも建築的ジャーナルというものが、その本来の段階において正しく形成されるということは誰しも望むところであります。

したがってそのためにするあらゆる積極的批判はつねにゆるされるべきだと思いますので、私は次に渡辺氏の建築観の三つの論点(渡辺氏が建築観として述べられたのは、大体この3点に要約されると思いますので)につきまして、順を追いつつその意味を吟味させていただきたいと思ひます。

「相対的」な「経済便宜外観構造の四則」の「和解こそ建築の円満完成の点と考へることが出来る。」元来建築形成に於て渡辺氏の言われます4則即ち経済、便宜、外観、構造などというものは、たしかに形成者にその形成の土台を与へ、表現の方法そのものを与へるという程度においてはたしかに事実であります。しかし一方その同じものが、形成に対する自由の束縛でもあり、その表現の領域の制約にもなるということも又事実であります。

そしてこのジレンマは、単純なそれらの「相対的」な「和解」なんて云われるもので、ただちに解決出来るものではないということは、少しでも建築形成に経験をもつ人であるならば誰にも肯定していただける所でありましょう。

即ち私たちの形成行為というのは、その形成環境の認識をたしかに必要とはしますが、猛その上にたつて、多くの可能性の中からただ一つのみを取り出すところの撰択と決定という求心的な決断力がつねに必要なのであります。



しかもその決断は、決して利根的な感情や気まぐれの末端ではなく、その形成課題としてとつくだ最初から、完成までへのあらゆる段階に於て、所謂経済、便宜、外観、構造の4則をはんすうそしやくしつゝ追求する真実の完成への真執至純な没頭というものの昇華に外ならないのであります。

したがって渡辺氏の言われるが如き所謂四則が単に相対的なものとして私たちの頭の中にたたへられるということは精々それが最も望ましい状況におきまして猶且、真実の建築形成の過程においてささやかな道標という地位を占めるにすぎないということが言へると思います。

建築の「真実の活し方」と「云へるのはやはり」「其設計者の思念の表現でなければならぬ」。

そしてその「思念はその裏にそれを培うところの国民性や風土的問題がある」と言つておられます。これは嘗て最もその醜体をばくろした国粹的スタイリングへの危険性が多分に含まれておるのではないでせうか。

そして私達が風土性や国民性に拘束的にうらづけされた狭隘な愚念を後生大事に建築の「真実の活し方」へのただ一つのよりどころとしなければならぬということは、余りにも島国的近視眼とも云うべきではないでせうか。

しかしながらたしかに創造というものの背後にはそのデザインをしかくあらしめたアイディアというものがあります。そしてその形と色は夫

々ある意味の表現として、私達にあるいは安定感をあたへ、あるいは素朴な親しみを感じさせます。

これはしかし形成者の徒らなる恣意がそのような表現をもたらしたのでは決してなく、形成主体そのものがその形成環境の中にすなほに順応することによつて、その結果それが最も自然なありかたとしてえた現象にすぎないのではないでせうか。

したがつて先にのべた四則の内的な理解というものの真義がこゝに一層深く解明されるのであつて、このようにして私たちの形成作為(創造)というものは大きな原理——いはば宇宙を秩序づけている大自然の法則ともいうべきものにつねに直面しているのであります。そしてそのようなしつかりとした基盤の上に於て、はじめて風土性、国民性というものも夫々一つの因子としての素直な意義と価値をその本来の地位に於ても

つことが出来るものと思います。

「建築家は社会の為に、よりよき住や公館をつくりあげるよう努めるべき」である。

そして建築士の問題をもこの「建築家の自悟と向上を計る事が何より第一義とせねばならない」「点より起つた」とするのでありますが、建築士法という明確に法的必要によつて生れたものを、このように観ずということはおかしいといわねばなりません。何となれば「社会に出た建物」が「粗雑なものとなり災害等に対しての被害が多い」ということは全く現行法規の疎漏性と社会に働く技術の低劣によることが最も大きいということが明かに断言できることであるからです。

したがつて渡辺氏の主張される建築家の社会的奉仕の善意というものは、たかだかその人の個人的な心構へにすぎず、私たちの建築形成に於

てはつねに最も専門的なそしてある意味では冷酷な創造の舞台に於ける真実の完成への追求のみが本当にものをいう力であり、それへの形成過程へ、いかほどの社会的良心がそそがれようと、その建築そのものはそのことによつて、何の価値をも附加されるということはありません。

そしてこのような形成の場に於てつくり出された成果と価値こそ、直ちにあらゆる社会の要求にこたへることが出来るのであり、又このようにして始めて建築の社会的使命というものも立派に果されたというべきであらうと思います。

一方こうゆうものを持たない建築と建築家は、その存在が社会そのものによつて抹殺されるのも、これ又ごく自然のことであるというべきでしょう。

(筆者、大阪府建築部住宅課勤務)

九洲支部だより

九州支部では此春以来講演会や見学会等開催され詳細報告を寄せられているが紙面の都合で乍遺憾全部を掲載する事が出来ず誠に申し訳ない次第である。本記は本年4月同支部で催された九州大学教授林禎二郎氏(本年3月帰朝)を囲むアメリカ事情についての座談会の一部を摘録したものである。同教授の専門は農学部であり又九大学生部長をしておられるのであちらの学生生活と養蚕の点につき支部より送附の原記録中から二三を拾つて見たものである。

日本の大学は自らの殻に閉じ籠り街との連絡がない大学教育は大学丈でなく町の人々の協力に依り完成する。大学も反省して町に何をサービスしているかを考えサービスに依りつながらを持つべきである。特に建築など生活に身近な関係のある人々に考えて貰いたい日本の大学は職業教育に重点をおき発達した。欧米は国家の文化的水準向上のため教養ある市民として又指導者を造ると云う点に重きをなして発達した。一つは教室が習識を主に一つは人間としての仕上げを専らとした此の結果命令の下に動く人間と、自らの考えて動く者との差があるわけだ。日本の学生は心の訓練が出来てないから種々の問題が生じていると考える。コロンビア、ハーバート、シンシナチイ、バグレー、シカゴ、デンバー其他各大学を視察したが米国学生の悩みは、通学用の自動車の置き場所である。日本では主要

都市のタミナルなどに困っているが向では学校で此の始末、国情が違うとは云え……学生の政治活動は日本と同じだが一部の者に全部が動かされる事は絶対ではない。男女共学は幼少時からやつてるので問題はない。性教育が普及され無智者がいないから之又間違ない。米国の大学は国立はない州立か私立だが好い大学は殆ど私立で授業料も高い。男女相半ばし適当な配偶者を見付ける事もある。男女交際はオープンで明朗、しかし生活や寄宿舎など厳正な規律が守られてる。娯楽機関と図書施設の完備は驚くばかりだ。アルバイトは各校共60%以上希望してるが日本と異なる点は学資は親から自分の小遣をアルバイトで稼ぐと云う事だ学生会館と図書館の立派な事は将に羨望の至りだ。要は出来る丈多くの時間を学内におき、外の時間を人格養成につとめている。日本も早く此の域に達し学生不幸を減したいものである。

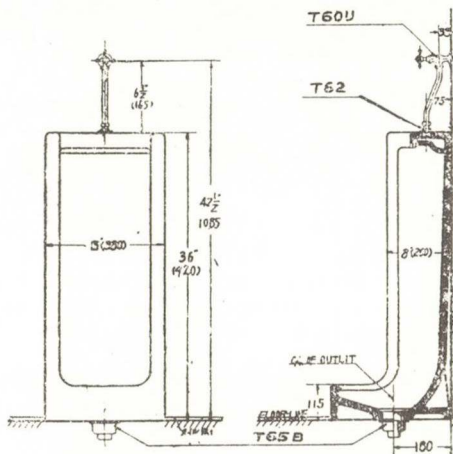
次に生糸の世界生産の80%は日本であり其大半は輸出され、大きな得意先は米国である。ナイロンの発達も著しいが、米人の絹に対する憧れは非常に強いものがある。現在高価品はハンドメイドである。キカイやナイロンで出せない味が無視されないし、米国での養蚕は成り立たない点で今後の輸出は決して悲観する要はないと思う。

九州支部にお詫び なるべく御送りの全文掲載いたしたく今日まで延びましたが遂に要領のみ抜萃の余儀なき事を御諒承願ひます。

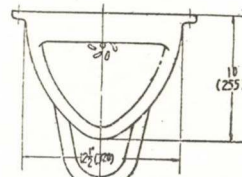
衛生陶器工事用図面 (其の二)

関西建材会編

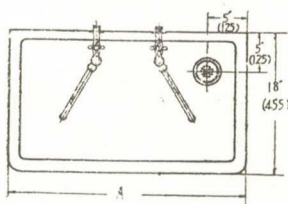
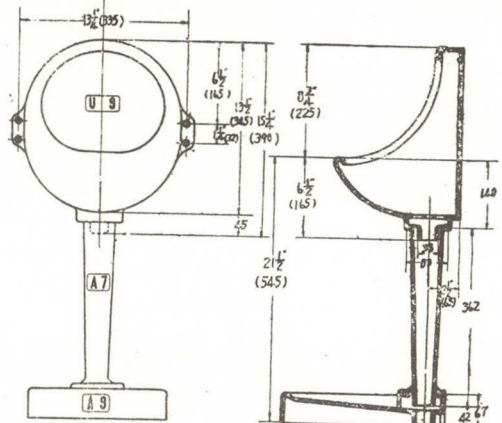
附属器具明細			
品番	名 稱	数 量	
T6CU	給水栓(パイプ付)	1	
T62	ス パ ッ ド	1	
T6SB	排 水 金 具	1	



壁型小型ストール

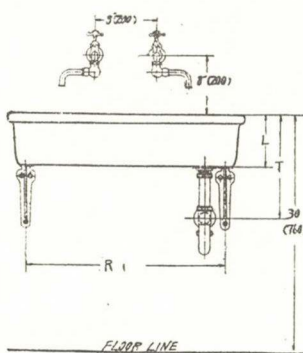


非水洗式小便器
前 受

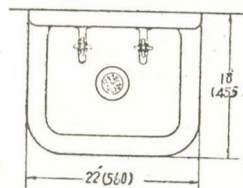
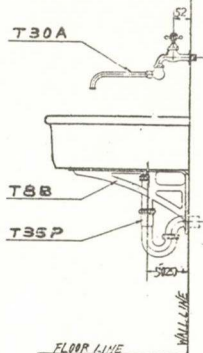


附 属 器 具 明 細			
品 番	名 稱	数 値	
T30A ¾"	自在水栓 ⅞"	2	
T3SP	排水金具	1	
T8B15"	プラスチック	2	
	木 栓 子	6	

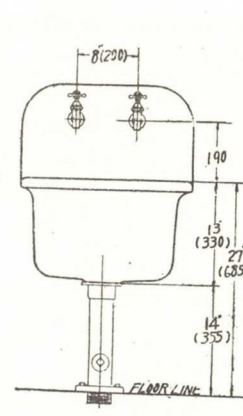
	SK 6		SK 7	
	INCH	M. M	INCH	M. M
A	30	760	24	610
L	6½	165	6	150
R	1	25	635	19
T	12¾	325	12¼	310



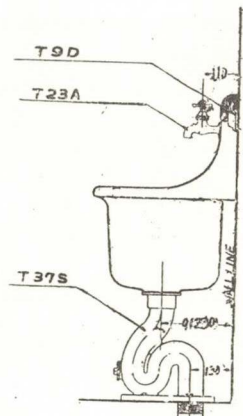
台所用バツク無シ流シ



附属器具明細			
品番	名 稱	数 量	
T23A "	横 水 栓 "C" #	2	
T37	排 水 金 具	1	
T9D	バツクハンガー	1	



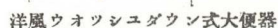
バツク付汚物流シ



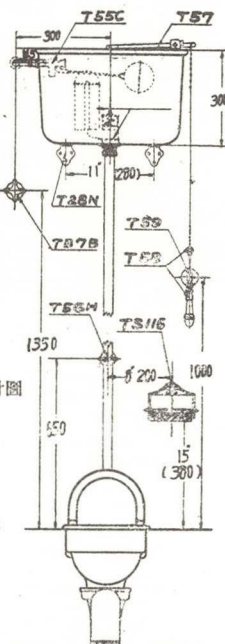
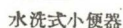
Technical drawing of a toilet fixture showing dimensions and components. The drawing includes a side view of the toilet bowl and a top view of the flush valve assembly. Dimensions are given in inches and millimeters.

Dimensions:

- Top view (flush valve assembly):
 - Overall width: 120
 - Distance from wall line to center of flush valve: 75
 - Distance from wall line to center of flush valve (alternative measurement): 115
 - Distance from center of flush valve to center of bowl: 6 (150)
- Side view (toilet bowl):
 - Overall height: 25 1/2 (643)
 - Distance from floor to top of bowl: 18 (453)
 - Overall width: 14 (353)



T60A	小便器用給水栓	1
A42	Sトラップ	1
T70B	ゴム栓	1



Technical drawing of a Western-style toilet (洋風サイホン式大便秘器) showing side, top, and detail views with various component labels and dimensions.

Side View Labels and Dimensions:

- CS 31**: Label on the upper left vertical pipe.
- T50**: Label on the upper left vertical pipe.
- CL 91**: Label on the upper left vertical pipe.
- 4" (115)**: Dimension for the upper left vertical pipe.
- 20" (710)**: Dimension for the upper left vertical pipe.
- 11" (285)**: Dimension for the upper left vertical pipe.
- 7" (185)**: Dimension for the upper left vertical pipe.
- 10"**: Dimension for the upper left vertical pipe.
- 25"**: Dimension for the upper left vertical pipe.
- WALL TIE**: Label on the upper left vertical pipe.
- T4A**: Label on the upper left vertical pipe.
- KS 12**: Label on the upper left vertical pipe.
- 15" (380)**: Dimension for the upper left vertical pipe.
- 14" (360)**: Dimension for the upper left vertical pipe.
- GL OF OUTLET**: Label on the upper left vertical pipe.
- T53**: Label on the upper left vertical pipe.
- AB1**: Label on the upper left vertical pipe.
- FLUSH LINE**: Label on the upper left vertical pipe.

Top View Labels and Dimensions:

- 14" (355)**: Dimension for the top view.
- TS 116**: Label on the top view.
- CS 31 1/2**: Label on the top view.
- 6" (150)**: Dimension for the top view.
- 9" D**: Dimension for the top view.
- T53**: Label on the top view.

Detail View Labels and Dimensions:

- CL 91**: Label on the detail view.
- 4" (115)**: Dimension for the detail view.
- 7" (185)**: Dimension for the detail view.
- 10"**: Dimension for the detail view.
- 25"**: Dimension for the detail view.
- WALL TIE**: Label on the detail view.
- T4A**: Label on the detail view.
- KS 12**: Label on the detail view.
- 15" (380)**: Dimension for the detail view.
- 14" (360)**: Dimension for the detail view.
- GL OF OUTLET**: Label on the detail view.
- T53**: Label on the detail view.
- AB1**: Label on the detail view.
- FLUSH LINE**: Label on the detail view.

洋風サイホン式大便秘器

S31 ロータンク取付図

洋風サイホン式大便器 S31ロータンク取付図

東洋陶器株式会社提供

会 員 動 静

入 会 者

二 号 会 員 (本部) 註 () 内は御紹介者名
太平商店 東成区大今里南之町2の238 (志垣正次)。
〔株〕東京興業貿易商会 東区北久宝寺町2の5帝銀ビル
日本建築設計〔株〕北区芝田町56 (井戸田重太郎)。

正 会 員 (本部)

安部重正 都島区大東町1の781 川本芳生方〔明成建設〕
(石田信成)。大岸正男 住吉区南加賀屋町38〔河佐野
市役所〕(松浪太郎)。大西惣次 伊丹市稲野住宅4号
地〔藤井建設〕。奥本清夏 南区大宝寺東の丁49〔営和
建設〕。玉置憲造 堺市賑町四丁67〔福助足袋〕(福島
角治)。藤田邦昭 府下泉北郡高石町南992〔日野建設〕
(赤松修)。山本芳太郎 堺市田出井町698 法務府官舎
〔大阪刑務所作業課〕(原川一己)。吉田敏春 都島区都
島中4市住宅99号〔自営〕(稲田正雄)。

(京都支部)

儀満芳郎 京都市上京区烏丸通寺の内西入上る〔株 島津
製作所〕(中村金三)。武部正一 京都市下京区木津屋
橋通堀川西入〔板金加工業〕。山口二郎 京都市中京区
舞楽廻り松下町12〔山口組〕。

(東海支部)

杉浦敏吉 一宮市川田町5の15〔杉林建築〕(近藤幸平)。

(九州支部)

加来順一 門司市葛葉町〔理研サツシュ〕(藪中一良)。

転 居, 転 勤

二 号 会 員 (中國支部)

大林組 広島市国泰寺町18。

正 会 員 (本部)

岩本基 西区江戸堀下通1の54。小田健治郎 天王寺
区国分寺町110。七条記曾一 南区高津8の22。柴垣
貴雄 神戸市東灘区本山町野郎大日ノ本15。竹内孝
八尾市山本165の3。竹花末春 東淀川区加島町431
三和建設工業(東海支部より)。平松太郎 京都大学内
生活科学研究所建築部。浜田国江 東住吉区田辺東之
町2の73。広岡浅治郎 西区北堀江三番町23 山本鋼
業堀江倉庫内三和鉄鋼工業。福井四郎 天王寺区小橋
西町1の36福井正二方。藤井菊二 西宮市甲子園口2の
322。宮田秀穂 都島区大東町2の528 窪島建設常務
室井修 守口市京阪本通1の726 木下方。山田英男 南
区上沙町2の46 (九州支部より)。

(兵庫支部)

加藤太郎 神戸市生田区三宮1の96 建築事務所。三田
一男 神戸市生田区楠町5の2の4。錦田直一 神戸市垂
水区東舞子1830の12。宮田博義 神戸市兵庫区荒田町
1の54 宮礼彰に改名。

(東海支部)

岩井金三郎 名古屋市中区千種区田代町金児路74 (兵庫支部
より)。西村真三二 大垣市南寺内町1の72 (本部より)

(中國支部)

佐々木長治 広島県佐伯郡大竹町8区大林組社宅。

(九州支部)

吉川秀夫 福岡市薬院相割町31 椎原辰男方。

(地 方)

長谷川俊弘 東京都中野区宮園町1の18 (中國支部より)
村田清也 村田清吉に改名。

准 会 員

川島三郎 豊中市柴原阪大石橋分院南山上病棟。松本
英得 東京都世田谷区代田2の825 蛭田方。

建 築 構 造 強 度 計 算 講 習 会 開 催

会 期 本年7月10日より12月14日迄毎週火金6~8時
会 場 京都市上京区丸太町 待賢小学校
科 目 構造力学、木構造、鉄筋コンクリート、鋼構造学
講 師 京工大高原、京大横尾、神大石崎、京大馬場各
助教授

講 料 全額 ¥ 3,000 協会員 ¥ 2,400 (テキスト代共)
申込先 下記中京区木屋町御池上ル 水道会館内日本建
築協会京都支部
主 催 日本建築協会京都支部

近 畿 電 氣 工 事 株 式 会 社

代 表 者 取締役
社 長

佐 竹 則 蒔

大阪市大淀区大仁本町二丁目九番地
電話福島①1803・4369・4826・4486番

支店 大阪南・大阪北・河原(堺)・神戸・姫路
京都・和歌山・奈良・滋賀・名古屋・呉

会 務 (六月分)

和歌山支部

2日1時より於同市商工会議所総会開催、島村副支部長司会の下に25年度決算及事業報告26年度収支予算等議了、終つて朝日新聞社田中予章氏の時局講演会を催し盛会裡に5時閉会

興実委員会

2日2時於朝日ビル池田達雄理事外出席、前年度経過報告後委員長として池田宮彦氏、幹事として津村重一氏を互選。地質調査表の完成に努める事其他協議。同月19日再開津村幹事外6名出席地質資料の集取方、地震風水害等予防対策常識の普及運動方法を議した。

主 記 会

6日2時より於朝日ビル浅沼理事外6名出席理事会提案事項其他を協議

京 都 支 部

5日、13日、20日、22日4回於事務所にて常議員会役員委員会を開き建築講習会開催の件を協議、7月10日より別項の通建築講習会開講する事となつた。
尙9日1時半より目下建設中の京都駅新築現場と日銀高野鉄筋造寮を見学参加者松井支部長外約40名。

新聞社と見本市会館建物見学

大阪会勢委員会主催にて3日2時より上記の通開催、戸田組設計施工で新装成つた市内今橋西詰日本経済新聞大阪支社6階建鉄筋コンクリート造を一巡上層今橋クラブで小憩高度の家具装飾諸設備を見ホールで特に映画を観賞後第2見学の内本町国際見本市会館に至り大林組で竣工を急がれている。工事中の現場を見学し使用されているダレックス剤等の説明を聞き5時散会、参加80余名。

顧問懇談会

15日4時より於朝日事務所にて中西六郎、中沢誠一郎、戴中一良氏等各顧問を中心とし竹腰会長、東畑副会長、中野、藤木理事等出席、協会今後の事につき懇談した。

建 材 部

14日及16日、19日関西建材幹事集合同部会の諸進行方につき協議、26日午後3時より大阪建設会館2階で朝日新聞社田中氏の時局講演会を開催。

会 勢 委 員 会

16日4時より於分室石井委員外8名出席今後の事業会務発展につき協議。

大阪府住宅復興促進協議会創立

本会が設立発起の一員となつていた上記協議会は6月20日大手前会館で創立総会が開かれ山村副知事外出席別項の如く無事議事を了し総会を終り発足する事となつた。本会よりは大和常務理事が列席した。

理 事 会

21日2時から於朝日ビル東畑副会長松久保監事外8名出席、工事請負約款頒布の件、朝日ビル冷暖房費負担の件、同ビル一部援助辞退の件、会員詮衡記念事業の件懇談、会長、顧問要請二件、職員1名退職の件、事務局上期賞与支給の件等別項の通協議、5月分収支計算外諸報告を了した。

鉄鋼問題に就て

25日吉田首相西下商工会議所に於て関西経済人と懇談あるを機し、竹腰会長渡辺旧制建築士会近畿支部長、鴻池建設業協会会長等25日午後会合鉄鋼問題につき要望の件を協議し即刻会議所副会頭に面接意見伝達方を嘱した。

編 輯 後 記

予告の通り本月号は大阪在住の建築界名士に御登場を願つて御意見を承つた。御多忙で御面談の機が仲々得られない方もあつたので発刊が遅くなつたことを会員諸氏に御詫びする。

来月号は建築材料に関する特集号で相当の大冊として発行すべく準備中である。

但し印刷関係の諸費用は、本年度協会予算編成当時に比較してかなりの値上りをしている為に、編輯委員一同が考慮しながらも、予算超過の傾向を免れない。その為にもつと雑誌を充実せよとの御希望は当然ながら逆に雑誌が縮小されねばならぬ状態になりつつある。会員諸氏の御支援を仰ぎたい。(白石)

建 築 と 社 会

第 3 2 輯 第 8 号

売価 1部80円(送料共)

昭和26年7月25日印刷・昭和26年8月1日発行

編集発行人 戸 川 弘
発 行 所 社団法人 日本建築協会

大阪市北区中ノ島3ノ3朝日ビル
電話 北 浜 ② 1334~9 番
振 替 口 座 大 阪 39975 番

大 阪 市 北 区 堂 山 町 6 6
印刷者 網 野 栄
大 阪 市 北 区 堂 山 町 6 6
印刷所 株式会社研文社 電話 ② 2056 番

●第三二集 第八号 掲載広告一覽 (掲載順)

理研鋼材
玉置産業
藤森工業
日新工業
協和製作所
河津裝飾
久保商店
東京興業貿易商会
関西スレート
三機工業
大阪城口研究所
大阪電気商会
桐田商会
齊久工業
須賀工業
西原衛生工業所
建材社
三晃商会
榮興商会
埼玉工業所
鈴木シヤタア商会
ヤマト電気商会

浅海電気産業
金剛商会
満点製作所
山田工業
松浦興業
産業スレート
東海電気土木
福田源
尾北商店
関城化学工業所
岡本安達工務店
水島商店
大阪防水建設社
三高製作所
岡居宇一商店
加地シヤッター工業
中川ラス製作所
室谷商店
片山鉄工所
ライトラバー興業
江昌
内外土木建材社

オリエンタルメタル製造
木下謹三商店
樫野石灰工業
三舟窯業
興亜建設工業
米谷建材店
川岸窯業
三幸商会
吉田芳雄商店
福屋工業所
理研シヤッター工業
石井建材
亀井
関西塗装工業
万勢商会
福昌
大阪建材工業
北尾商店
山本建材社
油脂化工社
高島屋裝飾部
日本セメント防水剤製造所
大三製作所
建材信和会事務所

田島応用化工